



文部科学省

地(知)の拠点[★]

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」(平成27年度採択)

事業名称「岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成」

地域で活躍する「地域活性化リーダー」教育プログラム

2019(令和元)年度

成果報告書



中部大学

(事業協働機関)

はじめに

中部大学は、文部科学省の「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」（2012年度採択）、及び「地（知）の拠点整備事業」（2013年度採択）における実績を踏まえ、2015年度より「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」に参加し、建学の精神「不言実行、あてになる人間」を信条として、地域社会の活性化と発展に貢献できる人材、「地域活性化リーダー」の育成を目指して様々な事業を展開しています。

このCOC+事業は、岐阜大学を主管校に、本学、中部学院大学、日本福祉大学、名古屋学院大学が参加し、「岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成」と称して、岐阜県における地域創生に貢献すべく、岐阜県、（一社）岐阜県経営者協会、（株）十六銀行、（株）大垣共立銀行、（株）マイナビと協働して行っている教育事業であり、今年度が文部科学省補助事業としての最終年度になります。

事業の目的は、岐阜県内企業のニーズと魅力を理解し、地域に定着して地域産業の担い手となり、地域の活性化に貢献できる人材の育成を目指すことですが、本学に求められている具体的な目標は、岐阜県内へのUターン就職率の10%アップです。この目標と合わせて、より広く「地域活性化リーダー」の育成という教育目標を達成するために、2019年度は、国際・地域戦略部門COC推進センターという新たな組織の下で、COC+推進委員会を設置し、その下に教育研究部会とキャリア部会を置いて、各種事業を実施してきました。

各部会では、COC事業における「地域創成メディエーター」の育成と同様に、正課教育の「学ぶ」と、正課外教育の「動く」の両者から、人材育成のための教育プログラムを構成し、活動を行いました。「学ぶ」では、キャリア教育科目、特別課題教育科目、リスク予防管理士指定科目の中から3単位以上の取得を、「動く」では、COC+に参加する5大学共通プログラムである企業見学会、サマースクール、岐阜企業展、企業向け成果発表会に加え、本学独自のPBLぎふゼミ、フィールド活動@ぎふ、地域活性化型インターンシップ、企業現場教育の活動から必須を含む5つ以上の活動参加を求めており、学生は個々の学修目標に応じて自律的に活動を行いました。

2019年度においては、昨年度までと同様に予定した活動の着実な実施と、昨年度を上回る多くの学生の参加が得られ、「地域活性化リーダー」の育成についても31名の学生にその資格を認定できる予定です。しかしながら、岐阜県内への就職率アップは約2%にとどまり、その目標は達成できていないのが現状です。

本成果報告書は、2019年度において実施したCOC+事業の活動と成果をまとめたものであります。本報告書の内容を学内外に広く発信して、本学のCOC+事業に関するご理解を深めていただくとともに、次年度以降の活動に活かしていきたいと考えています。学内外の多くの方々には引き続きご支援・ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2020年3月

中部大学 国際・地域戦略部門COC推進センター
センター長 松尾直規

-目次-

はじめに

1. 概要

- (1) 概要図 1
- (2) 運営体制・メンバー表 11

2. 活動報告 <学内プログラム>

- (1) 外部特別講師講義 15
- (2) PBLぎふゼミ 17
- (3) 企業現場教育 59
- (4) フィールド活動@ぎふ 81
- (5) 企業向け発表会 中部大学学生力体感会 2019 85
- (6) 地域活性化リーダーポスター発表会&授与式 89

3. 活動報告 <5大学共通プログラム>

- (1) サマースクール 91
 - サマースクール 2019 inひだ
 - COC+多治見プロジェクト2019
- (2) ぎふCOC+事業推進コンソーシアム成果発表会 99

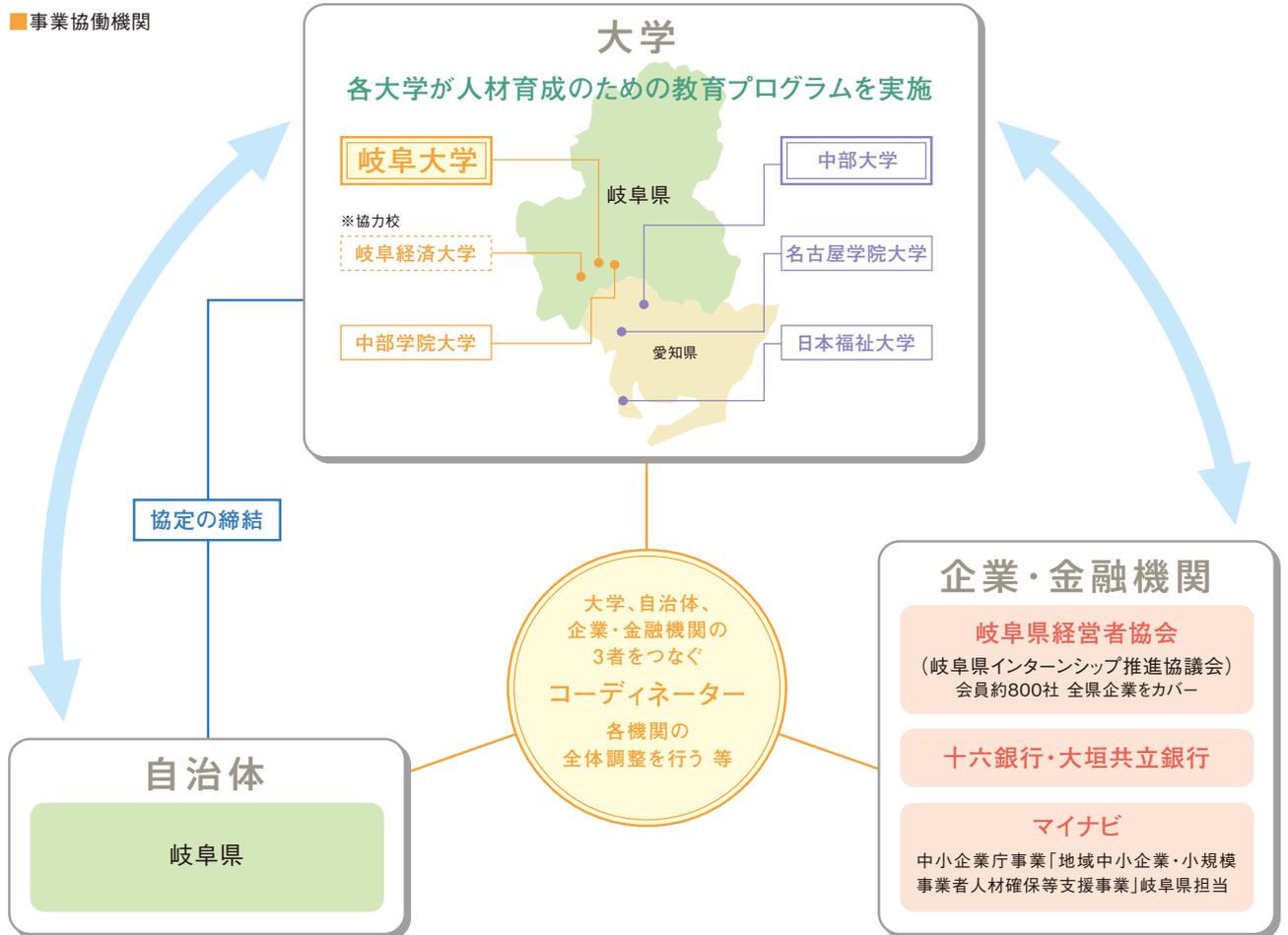
(3) 企業見学会	103
(4) 岐阜企業展	107
岐阜県業界研究&インターンシップ説明会	

1. 概 要

(1) 概 要 図

図解で分かりやすく！COC+事業

■事業協働機関



愛知県内の大学と岐阜県が協働。
岐阜県内の雇用創出、Uターン就職率向上を目指す。

若年層人口の都市部への一極集中を解消。

これからは
地域がおもしろい!

特集

地域で活躍したい人必見!

COC^{プラス}+事業 に取り組もう

「地(知)の拠点大学による 地方創生推進事業(COC+)とは?

文部科学省による事業で、都市部への一極集中、地方との経済格差拡大を解消しようと地域で活躍する人材の育成、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的にした事業です。

本学に隣接する岐阜県では、特に進学時や就職時に若年層の人口流出が問題となっており、本学は岐阜県からの進学者も多いことから、岐阜県内の大学、地方公共団体、中小企業などと協働して地方(岐阜)の魅力向上につながる計画を策定。「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に岐阜大学を中心とした事業機関と協働した取り組みを申請、採択されました。

このCOC+事業により、本学は学生にとって魅力ある就職先を創出し、地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムを行うことで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目指します。

事業名

岐阜でステップ×岐阜にプラス
地域志向産業リーダーの協働育成

事業実施期間

平成27年度～平成31年度

事業協働機関

中部大学、岐阜大学、中部学院大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜県、一般社団法人岐阜県経営者協会、株式会社十六銀行、株式会社大垣共立銀行、株式会社マイナビ

● 地域活性化リーダー
資格取得のモデルケース

受講はいつからでも、どこからでもOK!
必須単位の取得順序に決まりなし!
それぞれの必要項目を満たした時点で
認定申請が可能です。

〈例〉A君の場合、2年生から受講スタート。



1年生

- 「社会人基礎知識」(春学期)2単位 **選択必須**
- PBLぎふゼミ(8月下旬・2日間) **必須**
- サマースクール(9月初旬・2泊3日) **必須**
- 「持続学のすすめ」(秋学期)2単位 **選択必須**
- 企業現場教育1回 **選択必須**

3年生

- 地域活性化型インターンシップ **選択必須**
 - 企業向け成果発表会(2月末頃)1回 **必須**
- 地域活性化リーダー認定**
※岐阜企業展への参加を前提に認定します。
- 就職活動開始(3月初旬～)
- 岐阜企業展(3月中旬) **必須**

就職活動で
資格を生かそう!

4年生

卒業・就職

- 「学ぶ」の科目から3単位以上**選択必須**
- 「動く」の活動から5企画以上の参加**必須**
- PBLぎふゼミは参加**必須**

■ お問い合わせ先

中部大学 地域連携教育研究推進部(16号館3階)
電話 0568-51-1763 Eメール plus@office.chubu.ac.jp
http://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/

キャリア教育科目	●自己開拓(1単位) ●社会人基礎知識(2単位)
特別課題 教育科目	●地域共生実践(2単位) ●持続学のすすめ(2単位) ●地域の防災と安全(2単位) ●人類と資源(2単位) ●地球を観る(2単位) ●グローバル環境論(2単位)
リスク予防管理士 指定科目	●安全工学(2単位) ●バイオ産業リスク予防学(2単位) ●食品リスク予防学(2単位) ほか

- 企業向け成果発表会(大学連携) **必須** ●岐阜企業展(大学連携) **必須**
- サマースクール(大学連携) **必須**

選択必須

- 企業見学会(大学連携)
- 企業現場教育

選択必須

- 地域活性化型インターンシップ
(インターンシップA+B 岐阜県内対象)
- フィールド活動@ぎふ

●課題解決型のゼミナール

「PBLぎふゼミ」は、「岐阜」地域を学びの材料とし、学生自身が地域社会(岐阜はもちろん、自分の出身地など)の中で自分の持ち味を發揮して地域や周囲に関わっていくための力を身に付けることができる体験型学習。

地域をけん引する次世代のリーダーとして
自ら考え行動する力を身につけた学生に認定

※課外活動への参加、PBLぎふゼミへの参加申し込みは
地域連携教育研究推進部まで(16号館3階)



企業見学会(大学連携)での会社説明



中部大学のCOC+事業への取り組み

地域で活躍する

「地域活性化リーダー」を育成します

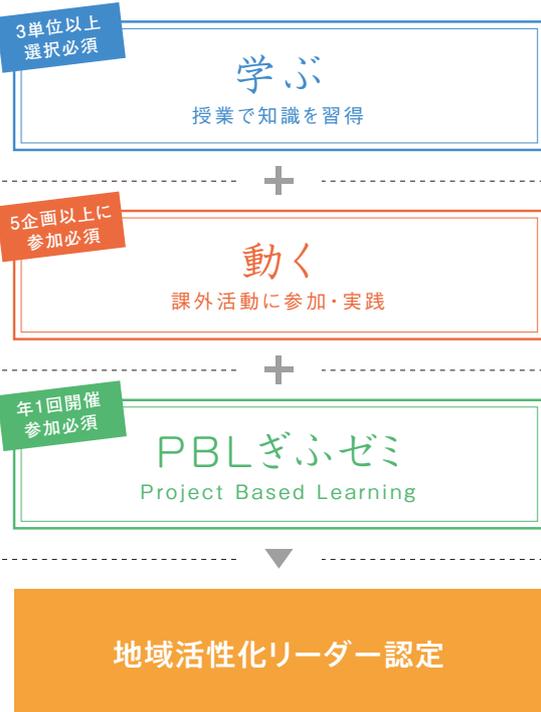
本学は、他大学・自治体・企業・金融機関と協働して岐阜県内の企業と学生との関わりを強化し、地域のニーズにあった人材、「地域活性化リーダー」を育成します。地域活性化リーダーは、岐阜県をモデルに地域の課題を見つけて、その解決に取り組む「ひと」です。

岐阜県がモデル地域ですが、地域を持つ課題は全国的に共通する点も多いので、ふるさとにリターン就職を考えるすべての人におすすめです。

就職活動にも役立つ！

地域活性化リーダーになるには

①所定の単位を修得し、②企業現場教育などの課外活動と③PBLぎふゼミ(Project Based Learning 課題解決型のゼミナール)に参加することで、地域活性化リーダーの資格を取得することができます。



課外活動
の
事例

企業現場教育での
高速道路施工現場見学



企業での地域活性化型
インターンシップ

こんなキミに
おすすめ

- 自分の生まれた町が好き。
- 就職はふるさとでしたい。
- 地域活性化に興味がある。
- 就職活動にも役立てたい。



中部大学

地域活性化リーダー

資格取得ガイド

文部科学省 平成27年度

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」選定取組

ふるさとに
狙いを
さだめよう。

ボクらが
地域の未来を
つくるんだ!

「地域未来」のスキマに キミのチャンスがある!

これからは「地域」がオモシロイ

人口減少・超高齢社会が地域経済を縮小し、若い世代の地域離れを加速させている現代。
しかし、いまこそ意識を向けるべきは「地域」です。
地域の特徴を生かした自律的で持続的な社会を創生する中心となるのは、やはり「ひと」。
地域を明るい未来にけん引する、次世代リーダーのやる気と力が求められています。

「地域」にこそある、キミの居場所

都心部ではキミは「大勢の中の一人」になるかもしれませんが。
でも、地域では一人ひとりの能力や発想、意欲は大切な宝です。
責任や重圧はあるけれど、仕事のやりがいや魅力をより早く感じる事ができ、
自分の可能性がどんどん見えてくるはず。
充実感にあふれた毎日が、「地域」でキミを待っています!



こんなキミに
おすすめ

就職は
ふるさとでしたい。

自分の生まれた
まちが好き。

地域活性化に
興味がある。

実際の仕事や
現場が見たい。

森や川、
自然が好き。

体験フィールドは、清流の国「岐阜」

長良川の鶯飼、世界文化遺産・白川郷、中山道馬籠宿など、全国的に知られる観光名所が点在する岐阜県。
自然に恵まれた土壌は農業、林業を盛んにし、美濃焼・刃物などの伝統工芸から、航空・自動車産業に関連する金属加工等の製造業を発展させて、ものづくりに取り組む「ひと」を育ててきました。
現在、IT産業の育成やアパレル産業の復興にも力が注がれ、未来を担う次世代リーダーが活躍する場は無限に広がっています。
中部大学は岐阜県恵那市の中部大学研修センターと岐阜県高山市、奥飛騨温泉郷の新穂高山荘を活用して、岐阜県という地域の現状や未来性を体感できる合宿やゼミを行います。



中部大学研修センター(恵那市)



中部大学新穂高山荘(高山市)

中部大学認定 地域活性化リーダーとは

岐阜の地域創生へのキーパーソン

地域活性化リーダーとは、岐阜県をモデルに地域の課題解決を見つけて、その解決に取り組む「ひと」です。資格認定までの道のりは遠く、難しそうだと感じるかもしれませんが、まずは臆せず、面白そうだな、楽しそうだな、と思った科目や課外体験に参加してみてください。考えるよりも行動してみることが大切です。自ずと課題や「自分」も見えて、自己成長にもつながります。また、資格認定は就活にも断然有利。一步前へ、その足を踏み出しましょう！



動けば実り豊か。「自分」のここが育つ！伸びる！

中部大キャンパスで

学ぶ

授業で知識を習得

地域や社会に貢献するために、自分はどんな人で何ができるのかを考え、自己を開拓し、社会人基礎知識を授業で習得。地域社会の背景や、問題解決に必要な専門知識も学びます。

3単位以上 必須

岐阜県で

動く

課外体験に参加・実践

岐阜県内にキャンパスを広げ、地域の人々とともに、地域特有の課題に取り組みます。その実践過程において、自分の能力や可能性を探り、社会人としての考え方を鍛え、個性を伸ばします。

5企画以上の参加 必須

P
B
L

キミのやる気を応援する
完全バックアップ体制！

地域活性化リーダーの育成は大学、地方公共団体、企業の連携で行われます。

- 岐阜県経営者協会
(岐阜県インターンシップ推進協議会)
- 十六銀行・大垣共立銀行

岐阜県の会社や企業が課外体験に協力。実社会、現場、仕事を体感できます。

- 就職情報サービス マイナビ

企業と学生のマッチングイベントや就職相談室を常設。資格認定希望者限定の企業情報もあります。

認定

動く この資格ならではの。地域志向の「課外体験」

課外体験はすべて岐阜県で行われますが、地域が持つ課題は全国的に共通する点も多く、ふるさとでのUターン就職を考える人には特におすすめ。

大学合同プログラム

岐阜大学・中部学院大学・日本福祉大学・名古屋学院大学などの他大学の学生たちと、切磋琢磨しながら交流を図る大学合同プログラム。仲間が増えて人脈も広がります。

企業向け成果発表会

自らの学びの成果を企業に向けてプレゼンテーションします。

岐阜企業展

岐阜県内企業とのマッチングイベントに参加します。

サマースクール

宿泊活動を行い、大学間・異学年の交流を深めるとともに企業への取材活動や発表を行います。

企業見学会

大学での学びと企業との繋がりを知りキャリア形成意欲の向上を図ります。

企業現場教育

企業や現場を訪問し、実際の業務を体験します。現場で求められている人材・スキルを体験から学び、就職に向け、将来像を明確にすることができます。



高速道路 施工現場見学

地域活性化型 インターンシップ(A+B)

参加手続: インターンシップA・Bと同じ
実習先: インターンシップBのマッチング段階で別案内
COC+事業協働機関の協力を得て魅力ある岐阜県の企業、官公庁などで行われる「地域活性化型インターンシップ」へ参加します。岐阜県出身者や岐阜県の企業に関心のある学生には特に有益な就労体験です。

フィールド活動@ぎふ

研究室が岐阜で展開しているさまざまな研究・教育活動へ参加。実際に現地で情報を収集し、課題や背景を理解し、解決に挑戦します。講義室を飛び出し、現実世界を自ら体験しましょう。



「新・森の健康診断」



「ジュニアセミナー」

PBL

ぎふゼミ
Project Based Learning

仕事に必要な共同作業の能力を養うために、Project Based Learning(課題解決型学習)を、岐阜県をテーマにグループ単位で行います。実社会に対応するリアルな問題に對し、その解決過程に参画することで実践的思考を鍛えます。

課題解決型学習の流れ

グループ
討議

活動記録の
作成

自己学習

成果報告

中部大学 3つの「あてになる人間」育成プログラム

「あてになる人間」育成プログラムの資格は、単位取得だけでなく、そのプロセスにおいて中部大学の建学の精神「不言実行、あてになる人間」の素質を身につけた学生に認定されるものです。同じ資格に何度でもトライ可能、各資格に共通する講座やプロジェクトもあるので、別の資格を重ねて取得することもできます。

春日井のまちがキミのキャンパス

地域創成メディエーター

地域の人と人をつ結びつけるメディエーター[mediator(媒介者)]となり、主体性をもって解決の一步を踏み出す力を身につけた学生に認定される資格です。

全学部対象

地域志向、ふるさと志向

地域活性化リーダー

岐阜県を通して地域の良さを知り、その特徴を生かし、地域をけん引する次世代のリーダーとして、自ら考え行動する力を身につけた学生に認定される資格です。

全学部対象

21世紀産業界の即戦力になる

リスク予防管理士

産業活動において重要課題ニーズとして求められる「リスク予防・リスク管理・リスク低減」のスキルを実践的に修得した学生に認定される資格です。

工学部・応用生物学部・生命健康科学部 対象

地域創成メディエーター
発表会・審査会

動く | 課外 / 1個以上の参加

生活・住環境を考えるまちづくり

コミュニティ情報ネットワーク

高齢者・学生交流
Learning Home Stay

キャンパスタウン化

報酬型インターンシップ

シニア大学

など

動く | 課外・一部正課 / 5個以上の参加

企業向け成果発表会 **大学連携 必須**

岐阜企業展 **大学連携 必須**

サマースクール **大学連携 必須**

企業見学会 **大学連携**

選択必須

企業現場教育

岐阜県内対象

地域活性化型
インターンシップ

岐阜県内対象・インターンシップA+B:3単位

選択必須

フィールド活動@ぎふ

岐阜県内対象のゼミ単位プロジェクトなど

動く | 課外

企業現場教育

必須

どの資格も
思い立ったら
始めどき!
いつでもチャレンジ!!

受講はいつからでも、どこからでも。
必須単位の取得順序に決まりはありません。
それぞれの必要項目を満たした時点で
認定申請が可能です。

学ぶ | 正課 / 10単位以上

キャリア教育科目 **1単位以上必須**

自己開拓:1単位 / 社会人基礎知識:2単位

特別課題教育科目 **2単位以上必須**

地域共生実践・持続学のすすめ ほか:各2単位

地域関連科目 **2単位以上必須**

すべての科目より自己選択・申請

学ぶ | 正課 / 3単位以上

キャリア教育科目

自己開拓:1単位 / 社会人基礎知識:2単位

特別課題教育科目

地域共生実践・持続学のすすめ ほか:各2単位

選択必須

リスク予防管理士指定科目

バイオ産業リスク予防学 ほか:2単位
岐阜県企業より特別講師を招聘

学ぶ | 正課・一部課外

リスク予防管理士特別セミナー **必須**

企業経営者クラスによる講演

リスク予防管理士指定科目 **必須**

バイオ産業リスク予防学 ほか:2単位
企業より特別講師を招聘



COC推進センターの事務局またはWebサイトで、詳しい情報が入手できます。

<http://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/>

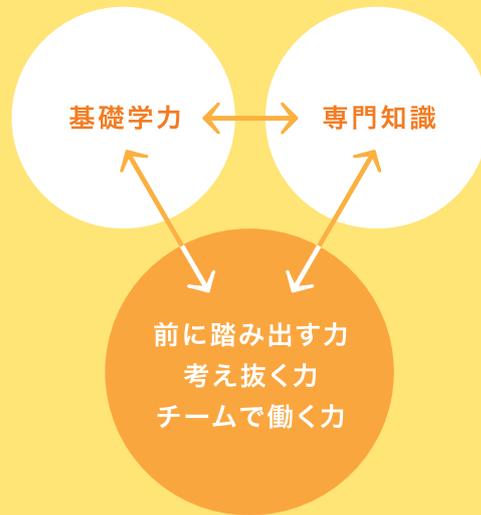
中部大学 COCプラス

検索

チャレンジする勇氣と実行。

もっと社会に、より地域に近い教育を。

中部大学の3つの「あてになる人間」育成プログラムは、
 在学中から社会経験を積み、社会で生きていくための
 即戦力を身に付けることができる中部大学方式の人材育成プログラム。
 その目標を資格取得要件に定めていますが、
 資格そのものが大事なのではなく、資格取得までの道のりこそが
 「意義」と「価値」がある「行動」です。
 自分の可能性を信じて、挑戦してみませんか？





地域志向、ふるさと志向。中部大学 ^{プラス} COC+事業

中部大学の「地域活性化リーダー教育プログラム」は平成27年、文部科学省の大学COC+事業(大学連携取組「岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成」)に採択されました。岐阜をモデル地域として、その魅力や課題を見つけ、特徴を生かして課題解決に向けて行動する能力を備えた、若き産業リーダーの育成に取り組んでいます。地域活性化リーダーの資格への挑戦は貴重な経験であり、その努力が実った資格認定は達成感や充実感があり、自分の自信と誇りになります。仲間とともに地域を、そして自分を創生しませんか。

中部大学 COC 推進センター

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地

TEL 0568-51-1763 FAX 0568-51-1172

E-mail : plus@office.chubu.ac.jp



文部科学省
地(知)の拠点
中部大学の「地域活性化リーダー教育プログラム」は、文部科学省が地域の課題解決に取り組む大学を支援する「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」=大学COC+(Center of Community Plus)事業です。

詳しくはWebサイトへ

<http://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/>

中部大学 COCプラス

検索

(2) 運営体制・メンバー表

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」運営体制
【ぎふCOC+事業推進コンソーシアム】

構成団体	岐阜大学、中部学院大学、 <u>中部大学</u> 、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜県、岐阜県経営者協会、十六銀行、大垣共立銀行、マイナビ ＜協力校＞ 岐阜経済大学
役員	代 表（1名）：岐阜大学長 副代表（2名）：岐阜大学理事、 <u>中部大学長</u>
事務局	岐阜大学研究推進部社会連携課

運営会議 事業の運営に関する重要な事項を審議する。
岐阜大学長・理事・地域協学センター長・統括事業推進コーディネーター、中部学院大学長、中部大学長、日本福祉大学長、名古屋学院大学長、岐阜県知事、岐阜県経営者協会会長、十六銀行頭取、大垣共立銀行頭取、マイナビ事業本部長

評価委員会
事業の着実な実施と事業実施による成果を産官学金言等の有識者により検証する。

幹事会 事業協働機関の実務担当者及び事業推進コーディネーターで構成し、事業全体企画・運営について調整する。
岐阜大学、中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜県、岐阜県経営者協会、十六銀行、大垣共立銀行、マイナビ

人材育成企画部会
岐阜大学、中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学

連携・マッチング推進部会
岐阜大学、中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜県、岐阜県経営者協会、十六銀行、大垣共立銀行、マイナビ

1. 概要

2019年度 COCプラス推進委員会名簿

委員長	COC推進センター長 (工学部長、都市建設工学科)	松尾直規
委員	COC推進センター副センター長 (工学部 応用化学科)	櫻井誠
同	副学長(国際・地域戦略部門担当)	辻本雅史
委員	キャリア部長	細川健治
	工学部副学部長	岩堀祐之
	経営総合学部経営総合学科	澤村隆秀
	国際関係学部国際学科	羽後静子
	人文学部コミュニケーション学科	三摩真己
	応用生物学部環境生物科学科	上野薫
	生命健康科学部生命医科学科	伊藤守弘
	教育実習センター	宮川秀俊
	工学部電気電子システム工学科	廣塚功
	工学部都市建設工学科	余川弘至
	工学部応用化学科	宮内俊幸
	工学部ロボット理工学科	藤吉弘亘
	経営情報学部経営総合学科	趙偉
	人文学部歴史地理学科	三浦陽一
	応用生物学部食品栄養科学科 食品栄養科学専攻	和田俊夫
	応用生物学部食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	小川宣子
	入学センター長	佐野充
	臨床検査技術教育・実習センター	青山友佳
	国際・地域推進部長	大嶽成功
	教務支援課長	出口良太
	キャリア支援課長	渡邊真和
	キャリア支援課	枘井健太郎
(事務局)	国際・地域推進部	蓑島智子
	国際・地域推進部	丹羽ゆかり

2019年度 中部大学COC+教育研究部会

委員長	COC推進センター副センター長 (工学部 応用化学科)	櫻井 誠
委員	工学部副学部長 (情報工学科)	岩堀 祐之
〃	工学部 応用化学科	宮内 俊幸
〃	工学部 ロボット理工学科	藤吉 弘亘
〃	経営情報学部 経営総合学科	趙 偉
〃	国際関係学部 国際学科	羽後 静子
〃	人文学部 歴史地理学科	三浦 陽一
〃	応用生物学部 環境生物科学科	上野 薫
〃	応用生物学部 食品栄養科学科 食品栄養科学専攻	和田 俊夫
〃	生命健康科学部 生命医科学科	伊藤 守弘
〃	入学センター長	佐野 充
〃	国際・地域推進部長	大嶽 成功
〃	教務支援課長	出口 良太
オブザーバー	COC推進センター長 (工学部長、都市建設工学科)	松尾 直規
〃	キャリア部長 (工学部、機械工学科)	細川 健治
〃	キャリア支援課長	渡邊 真和
事務局	国際・地域推進部	蓑島 智子
〃	国際・地域推進部	丹羽 ゆかり

1. 概要

2019年度 中部大学COC+キャリア部会

委員長	キャリア部長 (工学部、機械工学科)	細川 健治
委員	工学部 電気電子システム工学科	廣塚 功
〃	工学部 都市建設工学科	余川 弘至
〃	経営情報学部 経営総合学科	澤村 隆秀
〃	人文学部 コミュニケーション学科	三摩 真己
〃	応用生物学部 食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	小川 宣子
〃	教育実習センター教授	宮川 秀俊
〃	臨床検査技術教育・実習センター	青山 友佳
〃	国際・地域推進部長	大嶽 成功
〃	キャリア支援課長	渡邊 真和
〃	キャリア支援課	柘井 健太郎
オブザーバー	COC推進センター長 (工学部長、都市建設工学科)	松尾 直規
〃	COC推進センター副センター長 (工学部 応用化学科)	櫻井 誠
事務局	国際・地域推進部	蓑島 智子
〃	国際・地域推進部	丹羽 ゆかり

2. 活 動 報 告

<学内プログラム>

(1) 外部特別講師講義

外部特別講師 一覧 (2019年度)

工学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	スタートアップ セミナー	社会資本が直面する課題とその対応	(株)興栄コンサルタント	澤田 茂
2	生産加工学B	自動車ボディ成形技術の動向 ～軽量化と安全をめざして～	イハラサイエンス(株)	林 央
3	企業情報システムと 倫理	物流企業におけるICT	(株)セイノー情報 サービス	早川 典雄

経営情報学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	ベンチャービジネス	アントレプレナーシップ育成	(株)Dream少年	不破 太輔
2	ベンチャービジネス	アントレプレナーシップ育成	(株)オンダ製作所	清水 貴康
3	専門ゼミナールⅡ	IT企業現状と働き方	タック(株)	池田 温香 磯田 佳那

人文学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	政治学概論	畜産・精肉産業の展望と東海地方の 肉食文化を考える	(株)岐兵	鈴木 将弘
2	取材力	メディアの活用	(株)大光	吉田 真司

応用生物学部

No	授業科目	講義題目	所属企業等名	特別講師氏名
1	食品リスク予防学	リスク管理～食品製造におけるリスク 及びリスク予防について～	(株)秋田屋本店	池野 久美子
2	食品リスク予防学	企業活動におけるリスクマネジメント ～食の安心・安全への取組み～	厚生産業(株)	坂井 猛
3	食品リスク予防学	クレームから考える食品予防	内堀醸造(株)	佐古 和架奈
4	食品リスク予防学	株式会社サラダコスモにおける 食品リスク管理の事例紹介	(株)サラダコスモ	猪野 嘉中

(2) PBLぎふゼミ

リーダーシップを
発揮したい

チームに
なるとは
どういうこと?

自分らしくって?
自分の持ち味を
知りたい

地域貢献に
興味がある

コミュニ
ケーションが
不安...

人見知り
で
グループワークが
苦手!

そんな学生の皆さんへ

PBLぎふゼミ²⁰¹⁹

地域・社会で活躍したい! その一步を応援します

「PBLぎふゼミ」は、「岐阜」地域を学びの材料とし、学生自身が自分の持ち味を発揮して地域や周囲に関わっていくための力を身に付けることができる体験型学習です。グループワークを通して自分の新たな一面も見つかるかも?! 気軽にご参加ください。

< 2日間 連続プログラム >

8/6日(火)
7日(水)

両日とも 9:30 ~ 17:30

場 所: 中部大学 5131講義室 (51号館3階)

対 象: 全学部1~4年生 受 講 料: 無 料

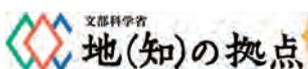
定 員: 40名 (先着順、定員になり次第募集終了)

申 込 方 法: 氏名・学籍番号・学年・携帯番号を
電話かEメールでお知らせください (締 切: 7月10日)

※この「PBLぎふゼミ」は、中部大学認定《地域活性化リーダー》資格取得に必須です

学 習
テ マ

「自分が何かを学ぶときのスタイルを探求する」 「自他の価値観について探求する」
「コミュニケーションについて体験的に学ぶ」 「課題解決のプロセスを体験する」 etc.



平成27年度採択 文部科学省地(知)の拠点
大学による地方創生推進事業(COC+)

中部大学 国際・地域推進部 生涯学習推進課 (キャンパスプラザ2階)

<https://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/> ダイヤルイン 0568-51-1763
E-mail: plus@office.chubu.ac.jp 担当: 丹羽・早川

PBL ぎふゼミの様子



個人ワーク



グルーピング



グループディスカッション



グループディスカッション



発表



発表



プレゼントカード交換



プレゼントカード交換

中部大学 御中

2019 年度
PBL ぎふゼミ 2019
アンケート集計結果
報告書

2019 年 8 月
株式会社ラーニングバリュー

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ2019』アンケート集計



目次

プログラム概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

今回のプログラムに関するアンケート

【受講前アンケート】 4

Q 1. このプログラムに期待していますか？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

Q 2. PBLぎふゼミに参加を決めたきっかけは何ですか？・・・・・・・・・・・・ 8

Q 3. それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身につけていますか？・・・・ 10

【受講後アンケート】 11

Q 1. このプログラムに満足しましたか？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

Q 2. このプログラムを受け、自分自身に対して、新たな発見がありましたか？・・・・ 15

Q 3. このプログラムを受け、「相手のことを知る」ことに変化がありましたか？・・・・ 18

Q 4. このプログラムで、グループのメンバーに自分のことをわかってもらえましたか？・・・・ 21

Q 5. このプログラムを受け、普段の授業への取り組み姿勢に変化がおきそうですか？・・・・ 24

Q 6. このプログラムを受け、今後の学生生活に変化がおきそうですか？・・・・ 27

Q 7. このプログラムを通じて、受講前と比べどのような力や姿勢が身についたと思いますか？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

Q 8. 「地域活性化リーダー」に向けた活動で、興味のあるプロジェクトは何ですか？・・・・ 31

Q 9. このプログラムの講師について感じたことを自由にお書きください・・・・・・・・ 32

Q 10. このプログラムについて感じたこと、気づいた点などを自由にお書きください・・・・ 35

【受講前・後比較】 38

受講前Q：それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身につけていますか？

受講後Q：このプログラムを通じて、受講前と比べどのような力や姿勢が身についたと思いますか？

*アンケートのフリーコメントについては、記入されたままを再現しています

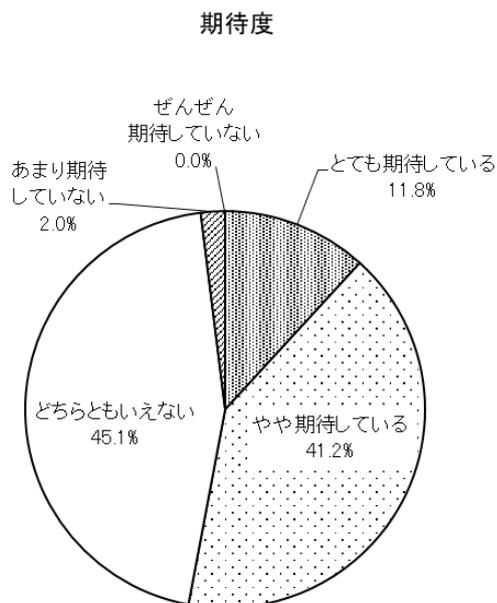


受講前アンケート

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ2019』アンケート集計

Q 1. このプログラムに期待していますか？それはなぜですか？



期待度		ととも期待している	やや期待している	どちらともいえない	あまり期待していない	ぜんぜん期待していない	無回答
全体	51	6	21	23	1	0	0
		11.8	41.2	45.1	2.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント

【とても期待している】

- 現在、教員養成試験の2次対策をしており、よく知らない人とグループワークをするのは良い経験になると思うから。
- このPBLぎふゼミを受ける事によって、たくさんの情報を聞き、たくさんの関わりがあると思いました。
- 資格を取るために必要であり、また個人の経験として役に立ちそうだと思っているから。
- プレゼンテーションが苦手なのでたくさんの人と話し合えと思ったから。また、地域活性に興味があるから。
- 他の講義では出来ない内容なので期待している
- 私は岐阜県出身ということもあり、岐阜の地域について自分達でいろいろ考える場というものに興味があるから。

【やや期待している】

- ぎふに住んでいるけど、それほどぎふについて分かっていないので、知りたいと思うから。
- 岐阜に住んでないけど岐阜のことについてくわしくなれたらと思います。
- ぎふについて詳しく知れると思ったから。
- グループワークなどの活動は就活に必要なと思うから。
- コミュニケーション能力を向上させられる
- コミュニケーション能力はこの先絶対に必要だから
- 資格取得には必要な科目であり、必要ということは、重要視されるほど授業形態がしっかりしているものだと思うから。
- 自分が普段からこういったセミナーは参加しないこともあるので、参加するなら何か得られるものがあるんじゃないかと思っているから。
- 自分自身さらには他者がどんな人間科を理解しこれからの人生にいかせるのではないかと思ったから。
- 自分のことを見つめ直し、考え直したいと考えていたから
- 自分のコミュニケーション能力を高める良い機会だと思うから。
- 自分を理解して深めるということはあまりしないことで、そんな事普段はやらない。自分の事がどれだけ知ることができるのか少し楽しみ。
- 地元が岐阜なので、地元のことを題材にしつつ、学ぶことができる良い機会だと思ったから。
- 就職活動における自己分析の一種として用いたいと考えているため
- 地域活性化リーダーという聞き覚えのないようなものを学び、自分及び周りについてより知ることができるのではないか。
- 地域活性化リーダーになる為に必須という事で何をするか分からないから。
- 地域活性化リーダーになれるから。

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ2019』アンケート集計



- 特にグループディスカッション。コミュニケーションの向上。
- どのような講義があるのか、まだ具体的に知らないから。
- どのようなものか理解せずに参加したが、面白いと聞いているため
- 普段学べないことをまなべるから。

【どちらともいえない】

- 期待というのが何についてなのか分からないのでどちらともいえない
- 具体的にどんなことをするのか分からない
- 具体的に何を行うのか知らないため。
- 具体的になにをやるのかがわからないため。
- このプログラムで何かを得られるかも、成長できるかも自分次第だと思うから。
- 資格が取れるから
- 自主活動の中の項目にあったというだけだから。
- 自分が変わるかどうか分からないから
- 自分に対する自己理解や他者への理解を深めていけると考えるから
- 他学科の人との交流は期待している。プログラム内容が分からないので期待も何も、しようがない。
- どういったことを行うのかまだわかっていないため。
- どのような内容なのかわからない。
- 何かを期待して来ていない
- 何をやるかイメージできないから
- 話す力や伝える力がないからです。
- プログラムの内容をあまり理解していないから。
- まだ何をするのかよくわからない。
- まだハッキリとどういうプログラムかわかっていないから
- まだよくわかっていないから。

【あまり期待していない】

- 何をするのか具体的に分からないから

Q2. PBLぎふゼミに参加を決めたきっかけは何ですか？

フリーコメント

- COC+の資格取得のために。
- PBLぎふゼミに興味があったから参加しました。
- 岐阜県内での就職を考えていた矢先に地域活性化リーダーの資格の存在を知ったため。
- 現在行っている自主活動の過程の一貫であったから。色々な他の学科の生徒さんと話すことができる機会はめったにないことだから。
- 参加のきっかけは、自分自身とても興味があり、やる事に意味があると思い参加を決めました。
- 資格取得、グループワーク力を身につけるため。
- 自主活動の内容のひとつであったのと地域活性化とは？と疑問に思ったから
- 自主活動の一つとしてあったため。
- 自主活動を受けたときにプログラムに入っていたため
- 自主活動をやろうと思っていてその中に含まれていた。
- 授業で先生に勧められたから。
- 授業での紹介があったため。グループでの活動に興味があるため。
- 先生、友達に勧められたから。
- 先生から勧められた
- 先生から勧められた
- 先生からすすめられた。
- 先生から勧められた。
- 先生から勧められたから。
- 先生からの勧めで
- 先生や友達に勧められたり、地域活性化リーダーに興味があったから。
- 先輩に話を聞いたから
- 地域活性化リーダー資格をとりたいたからです。
- 地域活性化リーダーに興味があった
- 地域活性化リーダーに興味があった
- 地域活性化リーダーに興味があった
- 地域活性化リーダーに興味があったから。
- 地域活性化リーダーに興味があったから。
- 地域活性化リーダーに興味があったから。
- 地域活性化リーダーに興味があり参加しました。
- 地域活性化リーダーの資格取得のため
- 地域活性化リーダーの資格に興味があったため。
- 地域活性化リーダーの資格を取得したいからです

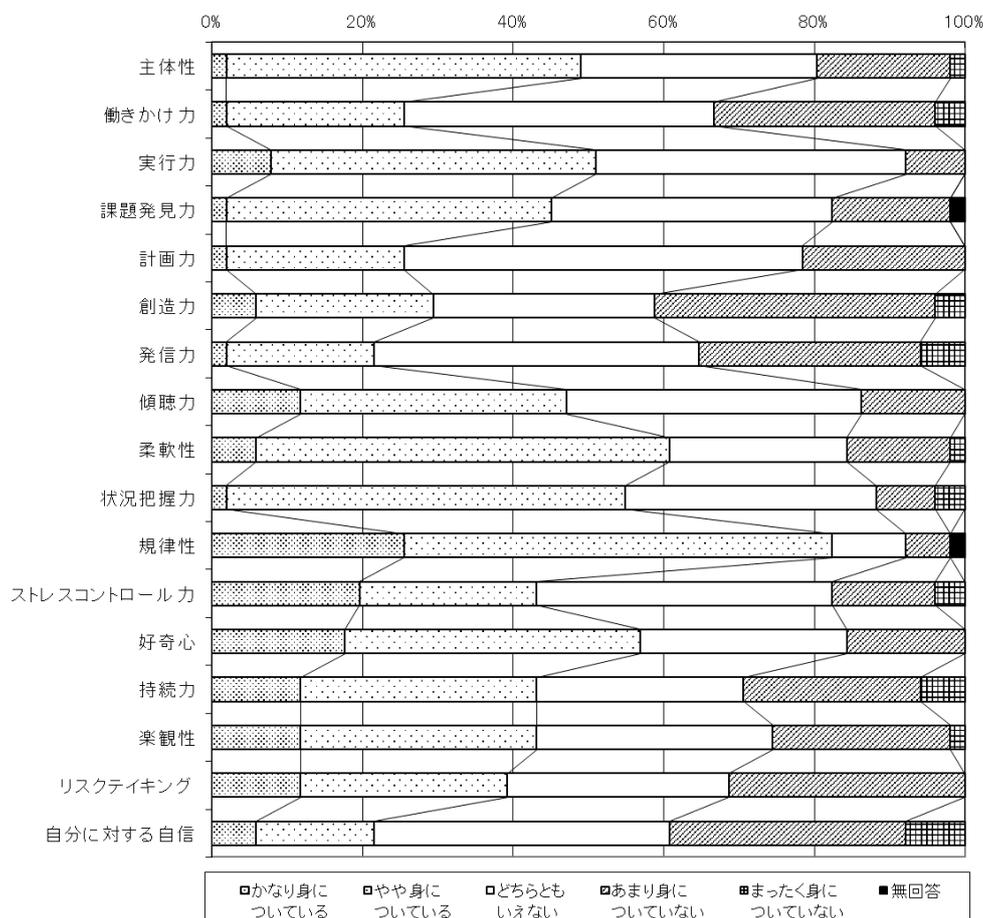
2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ2019』アンケート集計



- 地域活性化リーダーの資格を取得したいと考えたため。
- 地域活性化リーダーの資格を取得するため。
- 地域活性化リーダーの資格を取るために必須だと先生に勧められた。
- 地域活性化リーダーの資格を取ろうと思ったから。
- 地域活性化リーダーをとろうと思っているから。
- 友達に誘われた
- 友達に誘われた
- 友達に誘われた
- 友達に誘われた
- 友達に誘われた。
- 友達にさそわれたから。
- 友達に誘われたから。
- 友達に誘われたから。
- 友達に誘われたから。
- 友達に誘われたから。
- 友達に誘われたから。
- 友達に勧められたから。
- 何でもリーダーに興味があるから。
- ポスターを見て知ったから
- 友人の強い勧め、コモンズサポーター内での紹介

Q3. それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身についていますか？



(%)

	サンプル数	かなり身につけている	やや身につけている	どちらともいえない	あまり身につけていない	まったく身につけていない	無回答
主体性	51	2.0	47.1	31.4	17.6	2.0	0.0
働きかけ力	51	2.0	23.5	41.2	29.4	3.9	0.0
実行力	51	7.8	43.1	41.2	7.8	0.0	0.0
課題発見力	51	2.0	43.1	37.3	15.7	0.0	2.0
計画力	51	2.0	23.5	52.9	21.6	0.0	0.0
創造力	51	5.9	23.5	29.4	37.3	3.9	0.0
発信力	51	2.0	19.6	43.1	29.4	5.9	0.0
傾聴力	51	11.8	35.3	39.2	13.7	0.0	0.0
柔軟性	51	5.9	54.9	23.5	13.7	2.0	0.0
状況把握力	51	2.0	52.9	33.3	7.8	3.9	0.0
規律性	51	25.5	56.9	9.8	5.9	0.0	2.0
ストレスコントロール力	51	19.6	23.5	39.2	13.7	3.9	0.0
好奇心	51	17.6	39.2	27.5	15.7	0.0	0.0
持続力	51	11.8	31.4	27.5	23.5	5.9	0.0
楽観性	51	11.8	31.4	31.4	23.5	2.0	0.0
リスクテイキング	51	11.8	27.5	29.4	31.4	0.0	0.0
自分に対する自信	51	5.9	15.7	39.2	31.4	7.8	0.0

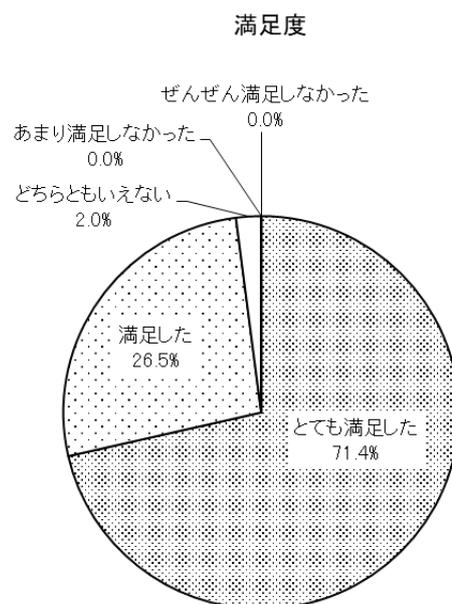
2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ2019』アンケート集計



受講後アンケート

Q 1. このプログラムに満足しましたか？それはなぜですか？



満足度		とても満足した	満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	ぜんぜん満足しなかった	無回答
全体	49	35	13	1	0	0	0
		71.4	26.5	2.0	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ2019』アンケート集計



フリーコメント

【とても満足した】

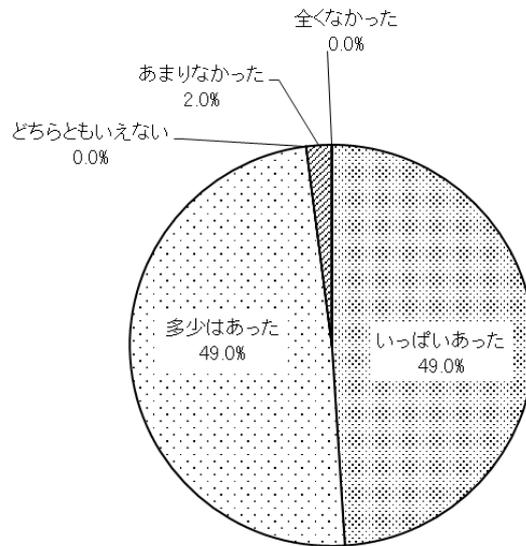
- 相手からの自分を知ることが出来たし、自分から話ということが出来るようになったから。
- 新しい発見が多かった。
- 色々なグループワークを通して、人と話を合わせる難しさや、たのしさを学ぶことができ、チームとして動くことを学べた。コミュニケーション力というのが向上したと思う。
- 考えていた以上に中身の濃い充実した話し合いができたため。
- グループ内での発言が苦手なので心配していましたが、知らない自分を知ったり、発言の楽しさを知ることができたから。
- グループの人達がおもしろい人ばかりだったし、話し合いもできた。
- グループワークの面白さを知れた体験ができたから。
- グループワークの楽しさ、コツを知ることができたから。とても充実した2日間だったから。
- グループワークの楽しさを知りました。
- グループワークの楽しさを学ぶことができた。また自分の知らない自分を知ることができた。
- グループワークの良さが分かった。
- グループを通して仲間と話す大切さがよくわかりました。
- このプログラムに参加した事により、多くの事を見つけることが出来た。また、自分から見た自分と、他者から見た自分のちがいを認識できた。
- こんなに深くまで1つの話題に対して考えたことがなかったから。
- 最初は、知らない人だらけで、いやだなと感じることもあったが、だんだん仲良くなって楽しいグループワークだった。
- 自分がどうゆう人間かを知れた。
- 自分自身たくさんの知識が増え、グループワークの大切さも学べた。
- 自分の自信が持てるところがわかった。
- 自分の分析の一端となった。
- 自分への理解を深めることができたし、いろいろな人と交流をし、学ぶことができたから。
- 自分を見つめなおすこともでき、コミュニケーションの大切さなど様々なことを学べた。
- 全体的にグループワークが多くあり、コミュニケーション能力を高めるいい経験になった。
- 沢山の様々なプログラムをすることができたから。
- 楽しかった。何より、グループワークが楽しかった。
- タメになるグループワークを行うことができた。
- とても楽しくグループワークができたから。
- 初めこのプログラムに対して思っていた事とは違うが、初対面の人ととても楽しくでき

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ2019』アンケート集計

Q2. このプログラムを受け、自分自身に対して、新たな発見がありましたか？
それはどんな点ですか？

自分自身への新たな発見



自分自身への新たな発見		いっばいあった	多少はあった	どちらともいえない	あまりなかった	全くなかった	無回答
全体	49	24	24	0	1	0	0
		49.0	49.0	0.0	2.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント

【いっぱいあった】

- 意外と自分のことをよく話していた。
- 意見を言うのが得意。知識が多い方。
- 意見をしっかりいえる。
- 意見をまとめられる所。
- 思いの他話すことができた。
- このプログラムを受ける前は私にリーダーシップはないと思っていたが、受けた後は私に合うリーダーシップの形を見つけられた。
- 自己の得意分野を知れた。(特に人間関係) また、協調整があるということに気づいた。
- 質問をするのが苦手だということ。理由がはっきりしていることとそうでない所がある。意識して行動していれば、少しずつ変わっていくのかなと思えた。
- 自分では受身が多いと思っていたが人からは意見をまとめることが出来たり、率先して動くことが出来たりしていることが分かった点。
- 自分にはグループをまとめていく力があることを発見した。
- 自分にはないと思っていた良い点や、自分では気づくことのなかった欠点(早口になりやすい、トーンが暗いなど)が多く見つかった。
- 自分の思っていることと本当の自分にズレがあったことなど。
- 自分の長所(意見を言えるところ、話をちゃんと聞くところ)が見つかりました。
- 自分は意見は言えるが説得力があまりなく説得できないことがわかった。
- 自分は聞く側にまわりがちなので、話す側にもまわるべきであること。自分は真似目なので、少し気を抜いた方がいいこと。もっと積極的に動くべきだということ。
- 自分は少しだけでも、リーダー気質と言われ少し自信になった。
- 自分は話の流れをつくることができると知りました。あとはもっと自分に自信を持って発言していけたらと思います。
- 初対面の人であろうと、短い時間で仲良く出来る。グループで考える事で一人より良い結果が出る。自分が思っているより自分は出来る。
- 他人から見て見えている自分に気付けた。
- 他人の意見を最後まできいていないことがある点。ライフポジションからもたくさんの発見があった。
- ちゃんといけんがいえだし、ムードメーカーといわれた。
- 発言力など。
- 人それぞれ考え方が違うのがすごくわかった。選択式の答えに理由をつけるのが大変だった。
- 人と1対1で話す時に目をそらしてしまう点。

【多少はあった】

- 意見を話せる。

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ2019』アンケート集計



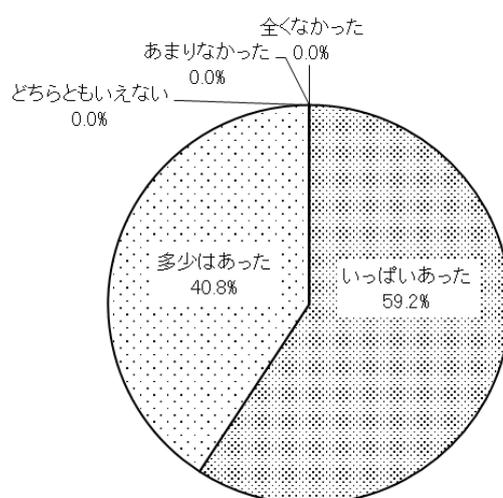
- 意見をまとめたがる。自分の意見をあまり曲げたくない。
- 思っていた以上に人見知りでないことに気づいた。
- 関わってみなかった人柄の人ともコミュニケーションがとれた。
- 自分自身で思っているよりも積極的に会話に参加したりできる点。
- 自分のいい所をいい方向に延ばすこと。
- 自分の意見の意思の弱さ。
- 自分の知らない自分というかアンケートを通してスタイルや、性格という、本当の自分を見つけれた。
- 自分は動くような人間だと思っていたが、分析する方が得意と知れた点。
- 自分は話すことがすきで、意見を発言するほうが好きだということ。
- 自分は人見知りだと思っていきましたが、初対面の人ともある程度気軽に話すことができた点。
- 積極性のなさ。
- たくさん話すと疲れる。他者理解の重要性。グループワークの進め方。
- 知識を活かして発言できたところ。話すことが好きだと言うこと。
- 長所・短所。
- 発言に自信をもったほうが良い。
- 話すことが好きな部分。
- 場をまとめることができること。人に意見を聞くこと。
- 人の意見を聞き受けれる。
- 人の話をきいてまとめることができる点。
- 周りから出た意見をうまくまとめることが出来ると感じた。
- みんなの意見をまとめることに長けているかもしれない。
- リーダーシップが意外とあった。
- 論理的に話せた。

【あまりなかった】

- 今までわかっていた点について、確信に近づいた感覚でした。

Q3. このプログラムを受け、「相手のことを知る」ことに変化がありましたか？
それはどんな点ですか？

他者理解に変化はあったか



他者理解に変化		いっばい あった	多少は あった	どちらとも いえない	あまり なかった	全く なかった	無回答
全体	49	29	20	0	0	0	0
		59.2	40.8	0.0	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

『PBLぎふゼミ2019』アンケート集計



フリーコメント

【いっぱいあった】

- 「話を聞けばよい」のではなく「聴く」ことが必要だと気づいた。
- Project をこなすためには相手の考えを読み取る必要があった。そのため相手のことを知ることから始まったこの活動で、他者に興味をいただけるようになった。
- 相手に興味をもてば仲良くなれる。
- 相手の意見をよく聞くようにした。それを受け入れてしっかり考えて話を進めるようにした。
- 相手の気持ちを知ることで、仲良くなれると気づいた。
- 相手の言葉だけではなくその時の心情を理解することも大切だと知りました。
- 相手のことを知ることによって、その人がなぜその考えに達したのかや、会話に参加できていなかったとしたらその理由もおおよそわかり会話に引き込めれるから。
- 相手のことを知ることによってグループワークがしやすくなり雰囲気も変わったので相手を知るの大事だとわかった。
- 相手のことを知ることによって意見をよりよくきけた。
- 相手のことを理解しようとして、注意深く聞いたこと。それが変化につながった。
- 相手の発言の背景にある感情を読みとるところまでが重要であると知りました。
- 相手の話に興味をもつようになり、相手のことをより深く知れるようになった点。相手の話の内容に質問できた点。
- 相手も自分と同じように考えを深めたりできる。
- 相手を知るためにはまず自分をさらけださなければならないことを学んだ。
- 相手を見て聞いたり話したりする点。
- 一般的な大学生の怖いというへんげんが多少とけたこと。
- 同じ学科でも話すことが少なかった相手の話をきけたため。
- 議論は自分じゃなくて、相手の考え方、気持ちを思いやる所が大切。
- 最初は想像で思っていたことが全然違ったりして楽しかった。
- 正直、こいつ好かんと感じる人でも話をしたら良い人で話してみなければわからないなと感じた。
- 初対面でもたくさん相手のことが知れると思いました。
- 知る事で相手の様々な事を知り、相手はそういう性格をしているとかがわかった。
- 第一印象から入らず、相手を知ることで得られるものが多く、違う考え方を理解できるようになった。
- 内面を知ると、たくさん意外なことがあった。
- 話すことで知るものがたくさんあった。
- 話すことより聴くことの重要性。
- 人に口答で伝える事はとても難しいという点。
- 人の話を最後まで聴くことによって、相手の意見を知り、その人について知れた。記者会見は良かった。



- もっと知りたいと思うようになった。

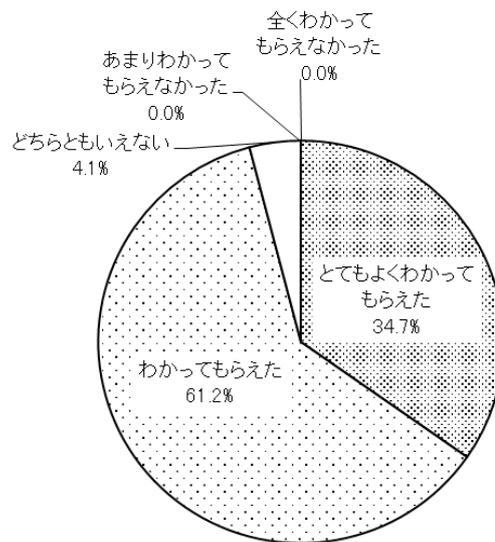
【多少はあった】

- 相手がどう思っているかが大事な点だった。
- 相手の意見や話をよく聞くことで、お互いの理解が深くなることが分かった。
- 相手の意見を聞くことでその人がどう思っているかわかる。
- 相手の興味のあることから話を広げていくといった点。
- 相手のことを知る、知ろうとすることで関係性や興味が深まりコミュニケーションをとれやすくなる点。
- 相手のことを知ることで会話を広げられるということが分かった。
- 相手のことを知るということは大切で、知ることによってその後の作業がはかどりやすくなるという点。
- 相手のことを深く知るためには質問をしていくことが大切だということに気づけた点。
- 相手の話をしっかりと聞くこと。
- 相手を知ることにより相手の意見や考えを知ることができるということを知った。
- おもしろい人を発見できた。
- きっと、初対面のまま話し合いをしたとしても今のようにはならなかっただろう。また、知らない人と話してもこうはならない。相手をよく理解していたため、今回楽しく出来たので、もっと相手を知っておきたいと思う。
- 緊張をほぐすことで意見が出てくる。
- こちらから、質問して相手が答えることで、よりリアルな相手のことを知れた。(自己紹介)
- 自分が興味ないことでも、相手は興味のあることで、相手が楽しそうにしている姿を見ると、調べてみようかなと思うことがあった。
- 自分と違う価値感があってそれを聞いてとても、おもしろいと思った。
- 知ることによって深まる話があったり、興味が出たりした。
- 人が話している時に相手が何を考えながら話しているのかを考えながら聞いていた。
- 人それぞれ持ち味がある。
- 他の人の意見を聞くのは大事だと感じた。

『PBLぎふゼミ 2019』アンケート集計

Q4. このプログラムで、グループのメンバーに自分のことをわかってもらえましたか？それはどんな点ですか？

自分のことをわかってもらえたか



自分のことをわかってもらえたか		とてもよくわかってもらえた	わかってもらえた	どちらともいえない	あまりわかってもらえなかった	全くわかってもらえなかった	無回答
全体	49	17	30	2	0	0	0
		34.7	61.2	4.1	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント

【とてもよくわかってもらえた】

- 2日間だけだったのに、自分とはこんなやつだというのをけっこう理解されていたと思うし、自分の意見を言えたのでそれが伝わった点。
- 明るいこととリーダーシップ。
- 笑顔がたえないし、自分をもっている所をわかってもらえました。
- 最後のプレゼントカードには自分でもあまりわからないことも書いてくれていた。
- 自分が言いたいことを先に当てられたりしたのでとてもよくわかってもらえたなと思いました。
- 自分では分からない発見をしたから。
- 自分の意見を言うところ。
- 自分の意見をハッキリと伝えていた点。チームの雰囲気が良くなった点。
- 自分の性格や考えだけでなく日常生活のことも話していたので、色々と知ってもらえたと思う。
- 性格や考え方などを、とてもよく理解してもらえた。
- チームでの話し合いに参加できた。
- 場をなごやかにする。
- 日頃、上辺だけで関わっている知人よりずっと、今日のメンバーは自分を理解してくれていると思う。
- プレゼントカードで、私が知らない私の一面に気づかせてもらえたので、自分のことを深く知ってもらうことが出来たと思う。
- もっと自信を持つといいという意見をもらいました。
- よく考える、まじめなど。
- よく笑うところ。

【わかってもらえた】

- 相手の意見を聴くことで、自分の意見もよりしっかり聴いてくれるようになった結果自分のことを話しやすくなった。よって自分が話のが好きな点などをわかってもらえた。
- 一端は分かっただけのように思う。
- いつも何を考えているか分からないが、発言するときは、しっかり発言するということ。
- オシャレなところ！
- 記者会見やインタビューなどで、自分のことについて質問されるので、相手に伝わっていたと思う。
- 協調性。いろいろ話してくれる。
- コミュニケーションの答えが妥当解と同じことに気づいてくれていたり、意識して行動していたことにも気づいてくれていた。
- 最後のプレゼントカードで書いてもらったことが自分の事を見てもらってくれてたのだと思ったから。

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ2019』アンケート集計



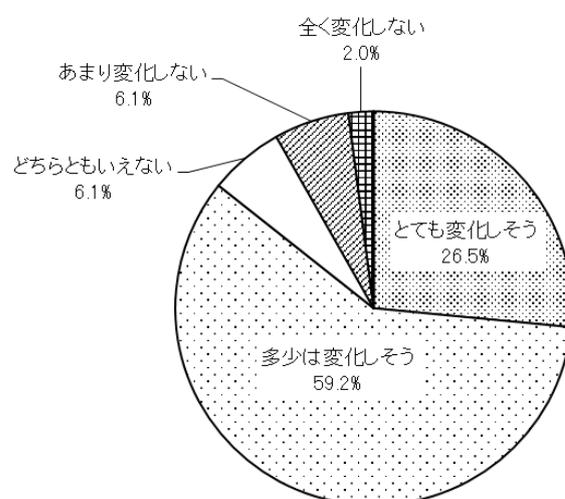
- 自分が主張が強いこと。
- 自分が積極的に話すことで、相手にも自分のことをわかってもらえたと思う。
- 自分から意見を出すのが苦手で、もう少し発言した方が良い所。
- 自分という人間性について。
- 自分なりの考え方を理解してもらえた。
- 自分に自信がないという点や性格については知ってもらえたと思う。
- 自分の意見がうまく伝わった。
- 自分の考えをしっかりと伝えられるところ。
- 自分のきいていたりすることが多くあって、もっと話すべきなど、自分でも思っていた部分だったので、わかってもらえたと思いました。
- 自分の知らない自分まで分かってもらえた。
- 素は殆ど出していなかったのに細かい所で理解してもらえてておどろきました。筋トレしてる→継続力、紙に内容を採山かいてる→真面目。
- 全てとはいわないが、自分の考え、自分の思想をわかってもらえたと思う。プレゼントカードではそのように書かれていたため。
- 積極的に意見を出したり、それでも自分に自信が無いところまで気づかれました。
- 積極的に話し、グループワークに参加する事。
- 楽しく話すのが好きな所。
- 長所が伝わった。
- 常に笑顔でいること。
- 人見知りだけど仲良くなると話せる。
- プレゼントカードではみんなから同じようなことを言われた点。
- 真面目、冷静。
- まじめで、根がやさしいと言ってもらえた点。
- ムードメイカー。

【どちらともいえない】

- 別にリーダーシップはとっていなかった。

Q5. このプログラムを受け、普段の授業への取り組み姿勢に変化がおきそうですか？どんな変化ですか？

授業への取り組み姿勢に変化がおきそうか



授業への取り組み姿勢に変化がおきそう		とても変化しそう	多少は変化しそう	どちらともいえない	あまり変化しない	全く変化しない	無回答
全体	49	13	29	3	3	1	0
		26.5	59.2	6.1	6.1	2.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ2019』アンケート集計



フリーコメント

【とても変化しそう】

- 聞く姿勢が大きく変わってしまった。
- グループワークでの話し方、聞き方が変わると思う。
- グループワークでの話し方、まとめ方、話の聞き方が変化して、活発なグループワークができそうだと思う。
- グループワークでは短い時間でも必ず話し合いをすることが大切であると思う。
- グループワークの講義があったら積極的に受け、自分への自信になれたらいいと思いました。
- グループワークのとき、どうはなすか。
- このプログラムは、成績には関係なく、自分が成長するための学習と言う感じで、授業でも自分が成長できるために取り組めそう。
- 自分で発言しようと思った。
- 自分のダメな所、周りにゆさぶられて意見を変更してしまう点を直していきたい。
- 積極的にグループワークで発言したり、周りとは協力して物事の解決に取り組めるようになると思う。
- 全員が合意するまで、納得するまで話し合いそう。多数決で決めなさそう。
- 人の話をより聴くように心がけると思う。
- 普通の授業でも話し合いをしたりする場面があるので自分の特徴をいかせるようにしたい。

【多少は変化しそう】

- 相手の意見をしっかり聞く。
- 相手の意見を尊重できるようになりそう。
- あまり授業につながるとは思わないが、友人と教え合う時は相手のわかるように、わかっているかを見ながらできそう。
- いつもマジメなので大きな変化はないです。
- 嫌でも取り組めば何か変われるのではないかと思えるから。
- グループワークが行われた時自信を持って発言することができそうです。
- グループワークがこれから増えると思うので、そのときに相手の話をもっとしっかり聞こうという姿勢が生まれたと感じます。
- グループワークで積極的に参加出来そう。
- グループワークで積極的に自分の意見が言えそう。
- グループワークでは積極的にはなせそう。
- グループワークとか苦手だったんですけど、真剣にうけれそうです。
- グループワークに参加すること。
- コミュニケーションの取り方。相手の意見をよくくみとる。
- これからのグループワークが楽しみになりそう。



- 自分の意見を少しは話せるようになったと思う。
- 授業でのグループワークでも積極的に話そうと思った。
- 主体的に動き、自分から挑戦しそう。
- 情報共有の大切さが分かったので、自分と相手の情報を組み合わせて課題に取り組みたい。
- 初対面の人も気兼ねなく話せそう。
- 先生の話をもとめることで理解力がふかまりそうなこと。
- ディスカッションや話し合いをする講義は少ないので、表立って活用することはできないかもしれないが、聴き方や、一つひとつの物事の意図を汲み取るなど、役立てられることはたくさんあると思う。
- 発言をしっかりとしようと思った、周りの人をまとめたり、意見をまとめたりすることもできそう。
- 話をちゃんときく。
- 話すことの大切さを学んだ。
- 人との会話に重きを置こうと思った。
- 普段だと忘れがちだけど、少しずつ意識して取り組んでいけるのではないかと思う。
- 普段の授業から自分一人で何事も解決しようとするのではなく、周りの友人・知人にも協力して課題解決にとりくもうと思う。
- 普段はグループワークでもそれほど積極的に発言しませんが、発言することで互いに成長できることを知ったので発言をがんばります。
- ライフポジションについて考えようと思った。

【どちらともいえない】

- グループワークを行う授業がなかなかないから。
- このPBL 岐阜ゼミで自分自身が変化するか分からない。しかし、こういう体験が積み重なっていくことで、変化が見えてくると思う。
- ちょっとお勉強は…。

【あまり変化しない】

- 基本今までと変りはなさそう。ただし、先生の考えている事から先生を知ろうと思うかもしれない。
- 授業の内容、授業の行い方によっては変わると思う。

【全く変化しない】

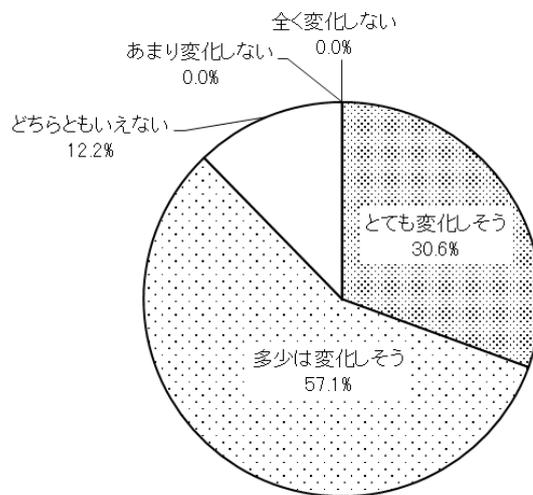
- 普段の姿勢に関しては良いと自負していますので、ただ、更なるモチベーションの向上にはなりました。

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ 2019』アンケート集計

Q 6. このプログラムを受け、今後の学生生活に変化がおきそうですか？
どんな変化ですか？

今後の学生生活に変化がおきそうか



今後の学生生活に変化がおきそう		とても変化しそう	多少は変化しそう	どちらともいえない	あまり変化しない	全く変化しない	無回答
全体	49	15	28	6	0	0	0
		30.6	57.1	12.2	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント

【とても変化しそう】

- 今いる友人だけで固まるのではなくもっと輪を広げるのもいいかなと思った点。
- グループワークがあった時、自分の発言に自信を持って言えると思う。
- コミュニケーションをもっと活発にとろうと思う。
- 今後の学生生活において、このぎふゼミをとおして得た事を活かしていければと思う。
- 自分の意見を言えるようになったのでよりアクティブに生活できそう。
- 就活に向けて必要不可欠なものがあった。
- 積極的に動けそうだと思う。グループワークで話す側にまわれると思う。
- 多少他人にも自分を見せることができそうな気がする。
- 話し合うことが得意になった。
- 人との関わり方、自分の意見の持ち方が大きく変わると感じました。
- 人の目をちゃんと見て話すという事を意識してみようと思う。
- 短い期間で知り合った人とでも仲良くなるために話しかけられそう。
- もう少し、真面目に勉強をして、知識を増やしたいと思った。
- もっといろいろな人と話したいと思った。
- より多くのことに挑戦するようになりそう。

【多少は変化しそう】

- C・Cに関してより接極的にとりくみたい。
- 相手の意見をしっかりきくことができ、自分も発言できる。
- 相手のことを深く知るようになる言動ができそう。何を考えて、どう思っているのかを知ろうとする方向に動くことができそう。
- 相手の話を聞き理解する。話し方。
- 新しい友達が出来るかな…。
- いろいろな人との関わりということで、学校にはいろいろな学科の人や先生がいると思うので、関わっていただけたらと思います。
- 考え方の変化。
- グループディスカッションはもっと話していきたい。
- グループワークをする際にとっても円滑に進めることができると思う。
- 自分からコミュニケーションを取っていこうと思った。聞く力が大切だと思った。
- 自分から発言できそう！
- 初対面の人でも、自分の意見をきちんと言えそう。
- 初対面の人でもコミュニケーションをとるのが少し得意になった。
- 初対面の人と意見交換をするときに役に立ちそうです。
- 積極的に会話をしていき、自分をアピールする。
- 積極的にコミュニケーションを取りたいと思った。
- 先輩と同じ空間にいても自分が引っ張る。

2. 活動報告<学内プログラム>

『PBLぎふゼミ2019』アンケート集計

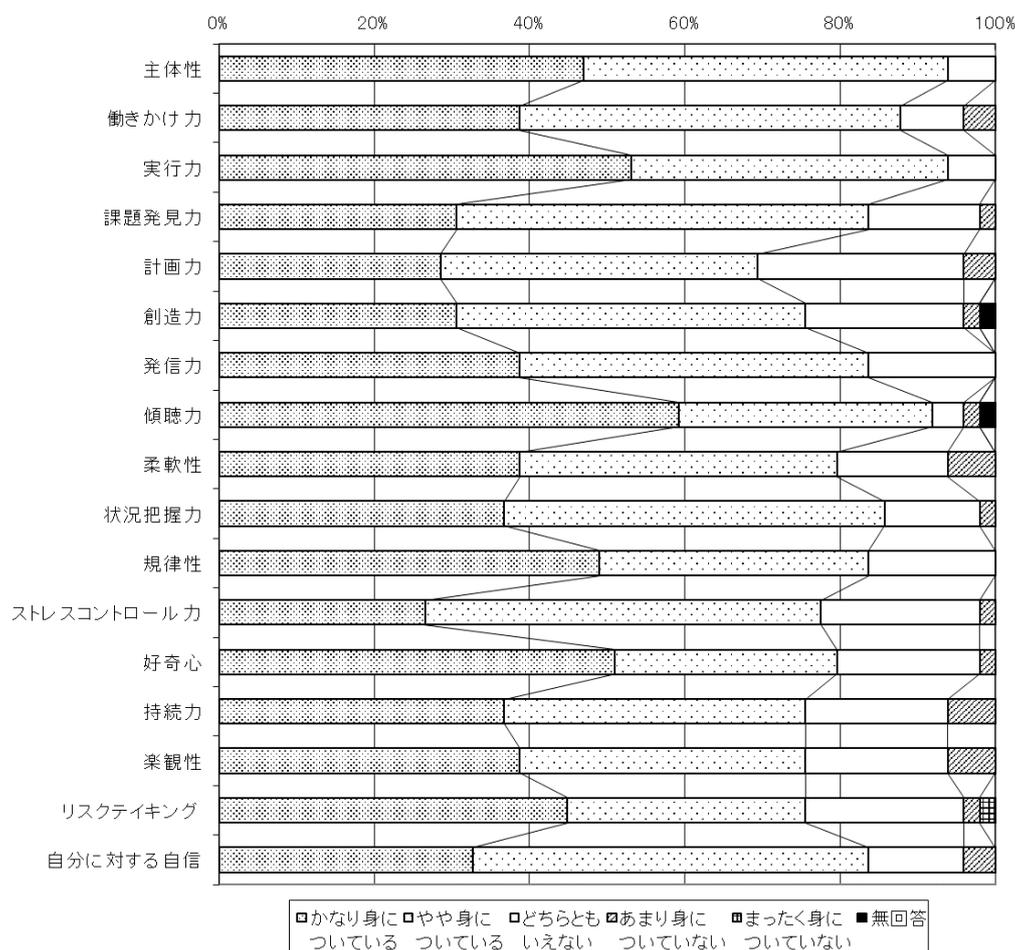


- 友達と話すときにもどんな感情かくみとって話せるようになる。
- 発言力、コミュ力が身に付いたと思うのでそれを生かして動けそう。
- 話をちゃんときく。
- 話すことや相手に何かを伝えることは苦手でしたが2日間という短期間で成長できて自信につながりました。
- 人と関わる時には、相手の表情だけでは思っていることが伝わらないので、しっかりと話をして仲を分かち合おうと思った。
- 人の事を良く見てしまいそう。
- 人の話をしっかりきくこと。それをきいたうえで自分の意見を発言すること。
- 学んだこと全て一気にとはいかないが少しずつでも聞く姿勢を変えていきたい。
- 周りの人間にもっと自分のことを話そうと思った。
- 未来のことを考えて、生活できるようになりそう。
- 物事について広く考えるようにする。

【どちらともいえない】

- Q5、と同じ理由です。あとは、相手の話しをしっかり聞き、理解しようとする心持ちに変化しそう。
- 数ある経験の内の一つですので、これからも経験を積み、良い変化が起こるまで答えはだせそうにないです。
- 生活には影響受けないと思う。
- まだどういった影響があるか分からないから。

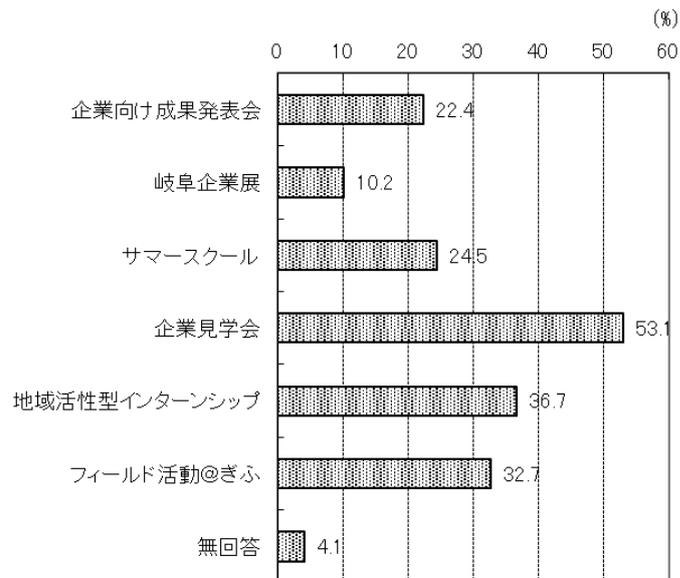
Q7. このプログラムを通じて、受講前と比べどのような力や姿勢が身についたと思いますか？



(%)

	サンプル数	かなり身についている	やや身についている	どちらともいえない	あまり身につけていない	まったく身につけていない	無回答
主体性	49	46.9	46.9	6.1	0.0	0.0	0.0
働きかけ力	49	38.8	49.0	8.2	4.1	0.0	0.0
実行力	49	53.1	40.8	6.1	0.0	0.0	0.0
課題発見力	49	30.6	53.1	14.3	2.0	0.0	0.0
計画力	49	28.6	40.8	26.5	4.1	0.0	0.0
創造力	49	30.6	44.9	20.4	2.0	0.0	2.0
発信力	49	38.8	44.9	16.3	0.0	0.0	0.0
傾聴力	49	59.2	32.7	4.1	2.0	0.0	2.0
柔軟性	49	38.8	40.8	14.3	6.1	0.0	0.0
状況把握力	49	36.7	49.0	12.2	2.0	0.0	0.0
規律性	49	49.0	34.7	16.3	0.0	0.0	0.0
ストレスコントロール力	49	26.5	51.0	20.4	2.0	0.0	0.0
好奇心	49	51.0	28.6	18.4	2.0	0.0	0.0
持続力	49	36.7	38.8	18.4	6.1	0.0	0.0
楽観性	49	38.8	36.7	18.4	6.1	0.0	0.0
リスクテイキング	49	44.9	30.6	20.4	2.0	2.0	0.0
自分に対する自信	49	32.7	51.0	12.2	4.1	0.0	0.0

Q8. 「地域活性化リーダー」に向けた活動で、興味のあるプロジェクトは何ですか？（複数回答可）



興味のあるプロジェクト(複数回答可)

	件数	%
企業向け成果発表会	11	22.4
岐阜企業展	5	10.2
サマースクール	12	24.5
企業見学会	26	53.1
地域活性化型インターンシップ	18	36.7
フィールド活動@ぎふ	16	32.7
無回答	2	4.1
全体	49	100.0

Q9. このプログラムの講師について感じたことを自由にお書きください

フリーコメント (Q1の満足度別)

【とても満足した】

- あまり難しい表現をせずに重要なポイントだけ説明してくれてわかりやすかった。
- 笑顔で指導していただいたことで、明るい雰囲気でした。実際に例を示して下さって分かりやすかった。私たちが考える時間をたっぷり与えて下さって良かった。
- グループで楽しく行なう物が多くあり、説明もハキハキととてもわかりやすかったです。
- グループワークそれぞれの説明がとても丁寧だと感じました。印象が良かったです。
- グループワークの際アドバイスなどをしてくれるところ。
- 講師自ら感情を出して、授業を授業だと思わせないような、友人と話している感じをかもし出していた。とても頭に話が入ってきた。
- 声の大きさに強弱があって特に伝えたいところがわかりやすかった。
- この2日間で初めてこんなにアンケートや話し合いをしました。
- 怖い人かと思っていたが、そんな事はなく、とてもおもしろい人だった。説明を分かりやすく行ってくれたのですぐにグループワークに入ることができた。
- 自己分析やライフポジションで自分の事がわかり面白かったです。進行もスムーズでもよかったです。
- 自分たちが新しいことを発見できるようにプログラムを進めてくれてよかったです。
- 自分たちにわかりやすく説明して下さった。
- 自分のあり方を学べた授業だったので、ありがとうございました。
- シャベリ方がしっかりした発声で大きな声で聞きとりやすかった。
- すごく穏やかな方だった。わからない所があったら優しく教えて下さった。
- 生徒の自主性を考えてやっていたように思った。
- 生徒の主体性であったり、あえて先生があまりかい入しないことで考えたり相談したりする力がついたと思いました。話も分かりやすく良かったです。
- 全体を通してスムーズに自分たちを誘導していただいた。1人1人の意見までしっかりと見られていた。
- ただ進行するだけでなく、皆の状況を見ながら、時にはアドバイスもくれたので、とてもよかった。
- トイレで会った時も気さくに話してくれて、良い先生だと思った。多くいる大学生を一人一人よく見ているなど感じた。
- 特になし。
- とても優しく接してくれていて、真面目な所は、真面目にやり、笑う所は笑うなどの、メリハリがある先生だと思いました。後、部分的にキメ細かく教えてくれた所。
- 話が分かりやすく、理解しやすかった。また、時間配分が良かったため、より理解しやすかった。



- 話がとても面白く引き込まれるような話し方であったと思う。
- 話のくぎりのつけ方がわかりやすくスムーズにできた。
- 話の環急や、言いまわしなど理解しやすかった。
- 話を聞きやすかった。わかりやすかった。話を聞いていてもねむたくならなかった。
- 非常に説明や例えがわかりやすく、コミュニケーションの手本となっているように感じた。
- 周りがよく見れている人だと感じた。
- 見た目は堅苦しい人かなと思ったけど、フレンドリーだったので、喋りやすかったです。
- みんなの進み具合をしっかりとみて柔軟に対応してくださったおかげでみんなとしっかり意見を出し合い決定することができました。また分かりづらいところも補足し分かりやすくしていただけてよかったです。
- もう少し堅苦しい感じだと思っていた。しかし PBL 岐阜ゼミは本当に楽しく、周りの人とも仲良くなることができたし、相互理解ができたので良かった。
- 分かりやすい説明やフレンドリー、親近感のわくような話し方で 2 日間ストレスなく今回のプログラムを行うことができたと考える。
- 分かりやすく教えて頂けた。

【満足した】

- 感情が豊かで分かりやすい説明でした。
- 気さくな方で楽しい講義だった。
- グループワーク中の注意点などを実際に前でやって見ていたり、学生の様子をちゃんと見て行動していたりすると感じた。
- これから必ず役に立つコミュニケーション能力、自分の意見を人に伝える力を高めるプログラムだと感じたので現状の大学生の苦手なことをはあくしていると思った。
- 最初このゼミはかっちりしたものかと思ったのですが、始終明るい感じのゼミを行ってくださり、グループでは初対面の人が多い訳ですが、とてもやりやすいグループでの取り組みをすることが実現できました。ありがとうございます。
- 進行スピードもちょうどよく、解説もよかったです。
- 常に私たち学生の進捗を確認して合わせてくれたのでとても良かったです。
- とても話がわかりやすく、相談する時間が長くしっかりはなせた。
- とても優しく、アドバイスもわかりやすく、言葉も聞き取りやすかった。
- 話し方が分かりやすくて、やさしい先生でした。勉強になりました。ありがとうございます。
- 藤田さんは私たちグループに自由に話し合いをさせてくれてとてもものびのびと意見を交わすことができた。
- 普段はとても優しいが、先生という立場になるととても熱心に教えてくれる。
- 僕たちにも分かるように、細かく丁寧に教えてくださったり、5 ガロンなど分からない単位とかも教えてくださったので集中して考えることができました。



【どちらともいえない】

- 長々と話をするというよりかは、学生が自ら考え、自主的に動きたくなるような話し方に感じました。口調に強制的、命令的なものを感じず、心穏やかに活動を取りくむことができました。

Q10. このプログラムについて感じたこと、気づいた点などを自由にお書きください

フリーコメント（Q1の満足度別）

【とても満足した】

- 2日間という短い時間だったが、講義の内容はとても濃く、良い経験となりました。
- 2日間みっちり活動してつかれたが、これからの自分のためになることを学べたのでよかったし、楽しかった。
- PBLぎふって何するんだろうと思っていたけど、めっちゃたのしかったです。
- 受ける側の事を考えてくれていて、ストレスなく参加でき、非常に心地良かった。
- 面白かったので、ぎふゼミに留まらず、恵那研修にも取り入れても良いと思いました。
- 貴重な体験ができたと思います。自分の長所や短所もみえてきた。
- グループでの意見交換に苦手意識があるので不安でしたが、しっかりみんなと協力し成長できたので参加してよかったです。
- グループワーク楽しい。
- グループワークとても楽しかったです。話合うこと、力を合わせることの大切さに気づけてとても良いと思った。
- グループワークの楽しさ、コツを学んだと同時に、話し方、聞き方についても学べて、とても良い機会だった。
- グループワークを多く行うことについて、とてもいい経験になるので、良いプログラムだと思った。
- この2日間でグループワークの楽しさがわかりました。今日参加できてよかったです。
- このプログラムで、自分を知って、他者も知ることができた。そして、チームとして動くことで社会に出てからの動きというのも学べたと思う。たのしく、自分のためにもなり良かったと思った。コミュニケーションとは話すことではなく、聞くことが大切だと思った。
- コミュニケーション、問題解決能力を育むためにはとても良いと思うので、また、違う状況で受けてみたいと思った。
- 今回のグループワークでは、様々な内容があり、それを通して、コミュニケーションは話し手より聞き手の方も大事だと改めて知れたぎふゼミになりました。
- 今後のためにもとてもためになりました。
- 最初は、少しゆううつな気分であったけれど、グループワークを通して多くの人の意見を聞いたのでとても良かった。最初のうちから、岐阜ゼミっていうのはこんなことするよ。という例があると良いと思った。
- 最初は2日と聞いてあまり気が進まなかったが終えて受けて良かったし学ぶことが多くあったと感じた。
- 参加する価値あり。



- 時間が長くて、つかれるけれど確実に得るものはあったし、とても良い経験になった。
- 自分自身が知らなかった面、改めて自分の強みが知れてとても有益な時間が過ごせたと思っている。
- 自分の良い所、悪い所に少し気づくことができた。直していかななくてはいけない所が明確になってよかった。
- 少し長くは感じたが良い経験にはなった。
- 想像以上に面白いプログラムだった。より多くの学生に広まって参加してほしい。岐阜の問題についてのコンセンサスは、もう少し知識をもった状態でやりたかった。
- とっても楽しかった。
- とっても自分を発見できる良いプログラムでした。
- とっても楽しい2日間になりました。グループワークはとても楽しかったです。
- とってもタメになり、グループワークを行う時の自分の得意な立ち回りもわかったので参加できてよかったです。
- とっても良いプログラムでした。自分にとっても、これからの自分をつくるための必要なものを見つけることができました。
- 仲間を知ること話すことの大切さ、伝えることの難しさを学ぶことができました。すごく楽しかったです。ありがとうございました。
- はじめは何をするかわからず不安でしたが、プログラムを終えた後は、やってよかったなと感じました。
- メンバーによるかもしれないが議論は楽しい。

【満足した】

- 2日間は長かったけれど、今後役に立つことを色々と学べたので、自己開示、コミュニケーションの面を意識していきたい。
- おもしろかった。
- 学科、学年の違う子と話し合うのはないのでとても良い機会だった。
- 岐阜県が抱えている問題の現状がもっと知りたかった。現状がわかるとグループワークがもっとしやすかったと思う。2日間楽しかったです。
- グループワークで色々自分について新しい発見ができました。
- コミュニケーション力がきたえられたと思った。グループで方向性を合わせるのが重要だと感じた。
- コミュニケーション力は少しついたが、1日中座りはきつかった。動けるようなコミュニケーションもあるとよかった。
- 上記にも述べたが、コミュニケーション能力、人の話を聴く大切さを改めて理解した。
- 対人関係が良くなると、グループワークがうまくいくと気づいた。とても楽しかった。
- とってもよい2日間になりました。ありがとうございました。
- とっても良かったです。自分について知ることができました。また、コミュニケーション能力がついたと感じました。



- 初めは乗り気ではなかったですが終わってみて、短い時間で仲良くなることができる人だと気づいて自信がついた気がします。

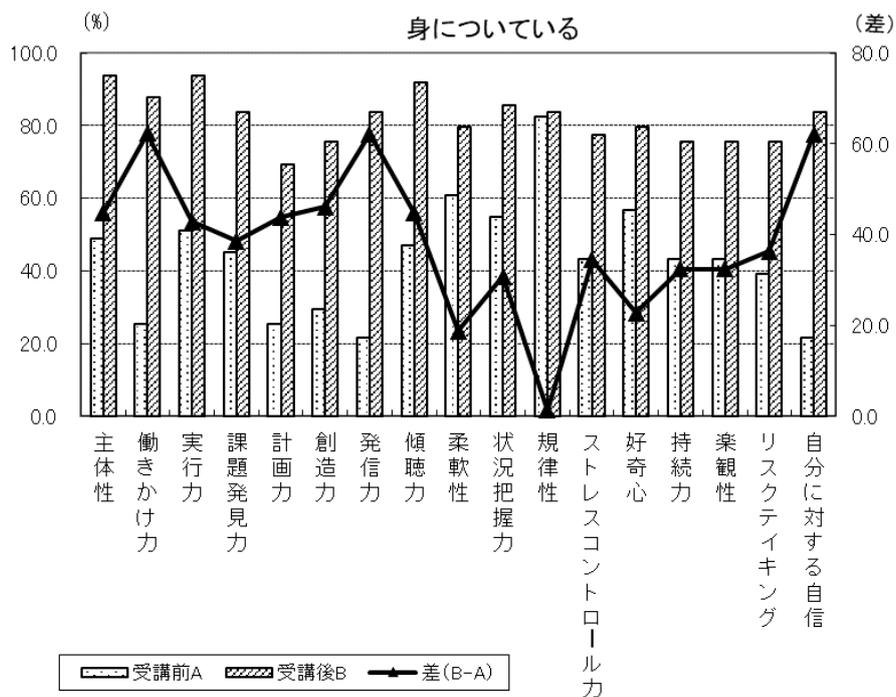
【どちらともいえない】

- ぎふゼミとあったので、ぎふに関する問題解決がメインかと思いましたが、自己・他者理解を深めるテーマで、楽しめ、自分のためにもなれたプログラムでした。

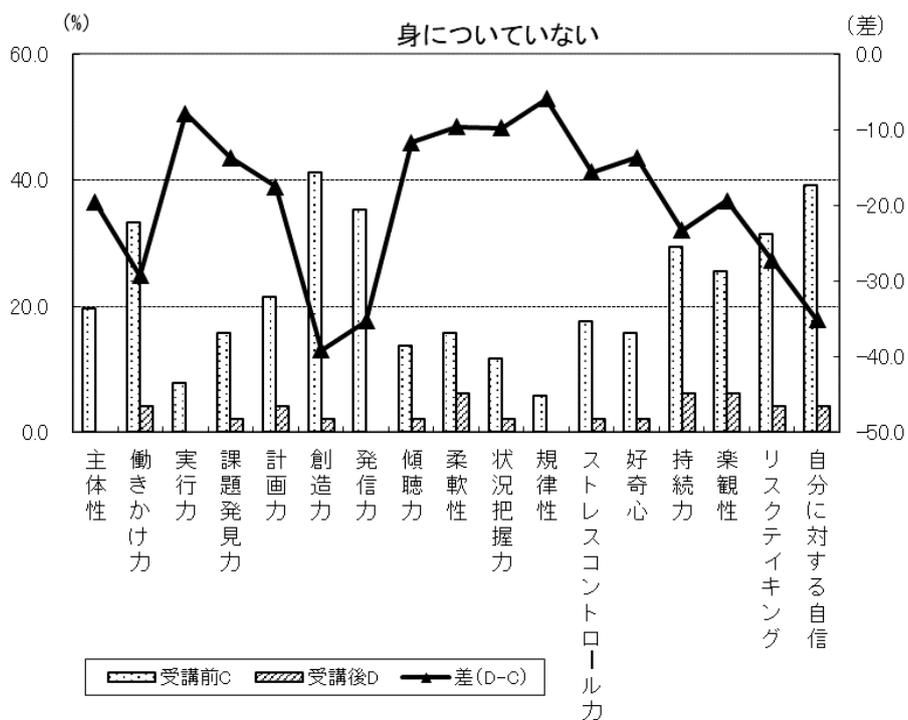


受講前・受講後比較
(社会人基礎力)

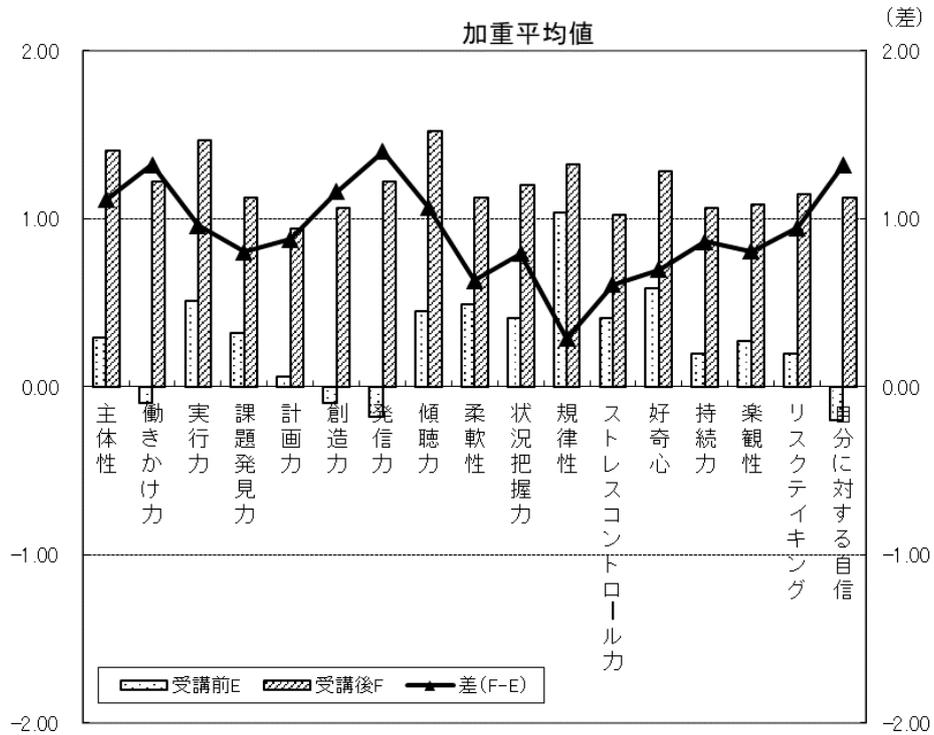
受講前Q：それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身についていると思いますか？
 受講後Q：このプログラムを通じて、受講前と比べどのような力や姿勢が身についたと思いますか？



	身についているA-B		
	受講前A	受講後B	差(B-A)
主体性	49.0	93.9	44.9
働きかけ力	25.5	87.8	62.3
実行力	51.0	93.9	42.9
課題発見力	45.1	83.7	38.6
計画力	25.5	69.4	43.9
創造力	29.4	75.5	46.1
発信力	21.6	83.7	62.1
傾聴力	47.1	91.8	44.8
柔軟性	60.8	79.6	18.8
状況把握力	54.9	85.7	30.8
規律性	82.4	83.7	1.3
ストレスコントロール力	43.1	77.6	34.4
好奇心	56.9	79.6	22.7
持続力	43.1	75.5	32.4
楽観性	43.1	75.5	32.4
リスクテイキング	39.2	75.5	36.3
自分に対する自信	21.6	83.7	62.1



	身につけていないC-D		
	受講前C	受講後D	差(D-C)
主体性	19.6	0.0	-19.6
働きかけ力	33.3	4.1	-29.3
実行力	7.8	0.0	-7.8
課題発見力	15.7	2.0	-13.6
計画力	21.6	4.1	-17.5
創造力	41.2	2.0	-39.1
発信力	35.3	0.0	-35.3
傾聴力	13.7	2.0	-11.7
柔軟性	15.7	6.1	-9.6
状況把握力	11.8	2.0	-9.7
規律性	5.9	0.0	-5.9
ストレスコントロール力	17.6	2.0	-15.6
好奇心	15.7	2.0	-13.6
持続力	29.4	6.1	-23.3
楽観性	25.5	6.1	-19.4
リスクテイキング	31.4	4.1	-27.3
自分に対する自信	39.2	4.1	-35.1



	加重平均値		
	受講前E	受講後F	差(F-E)
主体性	0.29	1.41	1.11
働きかけ力	-0.10	1.22	1.32
実行力	0.51	1.47	0.96
課題発見力	0.32	1.12	0.80
計画力	0.06	0.94	0.88
創造力	-0.10	1.06	1.16
発信力	-0.18	1.22	1.40
傾聴力	0.45	1.52	1.07
柔軟性	0.49	1.12	0.63
状況把握力	0.41	1.20	0.79
規律性	1.04	1.33	0.29
ストレスコントロール力	0.41	1.02	0.61
好奇心	0.59	1.29	0.70
持続力	0.20	1.06	0.87
楽観性	0.27	1.08	0.81
リスクテイキング	0.20	1.14	0.95
自分に対する自信	-0.20	1.12	1.32

(3) 企業現場教育

訪問企業 一覧 (2019年度)

工学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	建築学科	三菱電機(株)中津川製作所 金子建築工業	60
2	応用化学科	日本インシュレーション(株)岐阜工場	61
3	電子情報工学科	イビデン(株)	62
4	都市建設工学科	国立研究開発法人 土木研究所 自然共生研究センター	63
5	建築学科	八洲コンクリート(株)多治見工場	64
6	機械工学科	(株)ナガセインテグレックス	65
7	創造理工学実験教育科 創造エネルギー理工学専攻	核融合科学研究所	66
8	電気電子システム工学科	大王製紙(株)可児工場	67

経営情報学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	経営総合学科	浅野撚糸(株)	68
2	経営総合学科	(株)コムラ	69

人文学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	コミュニケーション学科	岐阜放送、岐阜新聞	70

応用生物学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	食品栄養科学科	ひだホテルプラザ	71
2	環境生物科学科	東濃ヒノキ白川市場協同組合	72-73
3	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	アピ(株)池田工場	74
4	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	(株)林本店	75
5	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科	JAPAN TESTING LABORATORIES(株)本社	76
6	環境生物科学科	東濃ヒノキ白川市場協同組合	77-78

生命健康科学部

No	対象学科	訪問先	掲載ページ
1	生命医科学科 スポーツ保健医療学科	(株)今仙技術研究所	79

企業現場教育 報告書

実施日	2019年 8月 20日 (火)		
訪問先企業名	三菱電機(株)中津川製作所、金子建築工業		
参加者	工学部 建築学科2、3年、修士1年生	参加人数	26名(うち引率2名)
引率者氏名	古川 忠稔 (工学部 建築学科 教授) 山羽 基 (工学部 建築学科 教授)		
内 容	<p><三菱電機 中津川製作所></p> <p>中津川製作所の歴史、概要について全体説明を受けた後、2 班に分かれ製品展示場 EarthE、第一、第二工場を視察した。展示場では、中津川製作所の主力製品である換気扇、全熱交換器、太陽光発電システムについて、製品の仕組みとその機能について体験コーナーなどにて理解を深めた。工場見学では、全熱交換器、有圧換気扇の製造工程を視察した。見学後、安全管理地域との交流について質疑を行った。</p> <p><金子建築工業></p> <p>金子建築工業がメンバーである、東濃地区の木材を扱う、協同組合東濃地域木材流通センターを見学し、木材の種類と用途などについて説明を受けた。金子建築工業のモデルハウス展示場に移動し、ZEH (Zero Energy House) を目指した実験住宅を見学し、設計のコンセプト、施工上の工夫点などの説明を受け、環境と建築に関して実践的な理解を深めた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="395 1527 916 1915" style="text-align: center;">  <p>集合写真</p> </div> <div data-bbox="932 1527 1452 1915" style="text-align: center;">  <p>見学写真</p> </div> </div>		

企業現場教育 報告書

実施日	2019年 9月 3日 (火)		
訪問先企業名	日本インシュレーション(株)岐阜工場		
参加者	工学部 応用化学科 3、4年生	参加人数	18名(うち引率1名)
引率者氏名	宮内 俊幸 (工学部 応用化学科 准教授)		
内容	<p>午前 11 時に大学を出発し、川島 SA で昼食休憩後、13 時に現地に到着した。</p> <p>13 時より約 40 分間、PR センター会議室で会社概要や製品に関する説明を受けた。</p> <p>その後、3 グループに分かれ工場および PR センターの見学を行った。</p> <p>PR センターではケイ酸カルシウム（ゾノライト）を原料とした建築資材、日用品などの製品の紹介を受けた。工場見学では現場で原料から製品になるまでの工程を見学した。</p> <p>見学後、会議室に戻り質疑応答を行った。製品に関するものから採用活動、企業方針など幅広く質問が出た。16 時 30 分に見学終了。</p> <p>現地を出発して神領駅経由で 18 時に大学に帰着した。</p>		
			
	見学写真		集合写真

企業現場教育 報告書

実施日	2019年 9月 9日 (月)		
訪問先企業名	イビデン株式会社		
参加者	電子情報工学科 3、4 年生、機械工学科 3 年生、 電気システム工学科 3 年生、応用生物学部 2、3 年生	参加人数	19名(うち引率1名)
引率者氏名	石井 清 (工学部 電子情報工学科 教授)		
内 容	<p>革新的技術を有する企業のリスク予防について知ること、自らのキャリアを考えることを目的に、岐阜県大垣市に本社があるイビデン株式会社の企業現場教育を実施した。イビデン株式会社は電子事業、セラミック事業およびその他事業を中心にしており、特にパッケージ基板では世界シェア 1 位を誇る、世界的な技術を有する企業である。</p> <p>会社紹介等の概要説明の後、10 名程のグループ (2 グループ) に分かれて工場内の見学を実施した。パッケージ基板作成に関わる最先端の装置を見ることができた。そこで作られている基板は、民生用のみではなく、守秘性の高い装置にも使用予定とのことである。また、とくに安全面に配慮されていることが強調されており、工場内の整理整頓が印象に残った。</p> <p>2019 年 4 月入社の中部大学 0B2 名も加わり、質疑応答を行った。30 分間の短い時間であったが活発な質疑応答があった。とくに中部大学 0B2 名は、イビデン株式会社の研修制度が充実していることを強調していた。</p> <p>参加学生は礼儀正しく見学をしていた。普段は見ることのできない最先端の設備等を見ることができた。また、大学とは異なった安全管理について知ることができた。きわめて有意義な企業現場教育となったと感じた。</p>		
	 		

企業現場教育 報告書

実施日	2019年 9月 12日 (木)		
訪問先企業名	国立研究開発法人 土木研究所 自然共生研究センター		
参加者	工学部 都市建設工学科 1、2、3年生	参加人数	28名(うち引率2名)
引率者氏名	伊藤 睦 (工学部 都市建設工学科 准教授) 武田 誠 (工学部 都市建設工学科 教授)		
内容	<p>講義の受講ならびに実験河川体験を行った。</p> <p>講義では、地域のリスク予防としての治水対策、地域にうるおいをもたらす多自然川づくりのあり方について学んだ。実験河川体験では、魚類採取ならびに河川の水深・流速を行うことで、河川の直線部、蛇行部、拡幅部や水深が流速に及ぼす影響や、流速が魚類の生息に及ぼす影響を体感した。これら講義と実習を通じて、地域の水害リスクを低減する治水対策手法を検討するうえで、生態系・地域住民の生活環境にも配慮する必要性について議論し、この配慮がひいては地域活性化の一助となることを学んだ。</p> <p>スケジュール：</p> <p>10:45～12:00 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然共生研究センターの概要(15分) ・「多自然川づくり」について(60分) ・治水対策と河川環境 <p>13:00～15:00 実験河川体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験河川の直線部、蛇行部、拡幅部を対象とし、魚類と物理環境の関係性をみる。 ・魚類採捕 ・物理環境の計測(水深, 流速) <p>15:00～16:00 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成: 治水対策を行う上で、どのような環境への配慮を行えばよいか 		
			

企業現場教育 報告書

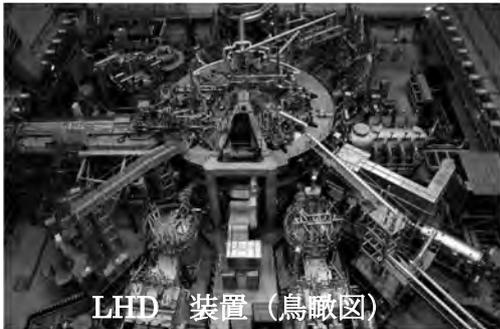
実施日	2019年 10月 15日 (火)		
訪問先企業名	八洲コンクリート株式会社		
参加者所属・学年	工学部建築学科 3年生、4年生	参加人数	37名(うち引率2名)
引率者氏名	橋田 浩 (工学部 建築学科 教授)、 田頭 庄三 (工学部 建築学科 非常勤講師)		
内容	<p>■概要説明およびコンクリート試験練り立合い</p> <p>副工場長から多治見工場の概要説明を受けた後、2種類のコンクリートの試験練りを見学した。一連の試験練り作業を理解するとともに、普通強度およびタワーマンション工事で使用される超高強度コンクリートの練り上がり状態の違いを体感した。この時採取した試験体は後日大学で力学特性試験を行う予定である。</p> <p>■生コンクリート製造プラントの見学</p> <p>生コンクリートプラントの製造設備を見学した。1回で5m³(通常の2倍)の生コンクリートを練ることができるミキサの巨大回転翼や、ベルトコンベアへ落下する蟻地獄のような骨材保管庫など、学生は非常に興味深そうであった。各所で装置や生コンクリート製造に関する質疑応答があった。</p>		



企業現場教育 報告書

実施日	2019年 11月 21日 (木)		
訪問先企業名	(株) ナガセインテグレックス		
参加者	工学部 機械工学科 2、3、4年生	参加人数	16名(うち引率2名)
引率者氏名	安達 和彦 (工学部 機械工学科 教授) 佐伯 守彦 (工学部 機械工学科 教授)		
内容	<p>超精密加工装置の製造を手掛ける(株)ナガセインテグレックスに行き超精密加工に関する最先端技術や安全管理に関する見学を行った。</p> <p>13時に神領駅に集合し、バスで岐阜県関市武芸川町の工場に14時に到着した。</p> <p>到着後は、会議室に入り20分程度の会社概要や主要製品の説明などを受けた後、2班に分かれて工場見学を行った。見学では、まずショールームに行き超精密加工された製品等の説明を受け、その後に超精密加工装置の組み立て工場の見学を行った。小型の超精密平面研削盤から最大の物では3m×10mの超精密門型平面研削盤の組立など通常は見学できないところまで見学させていただいた。</p> <p>大型の工作機械では数10tもの重量部品を扱うこともあり、安全管理には細心の注意を払って作業している様子が見学できた。</p> <p>見学後は会議室に戻り、質疑応答を行った。製品の精度保証をする上での注意点や支配要因に関する質問などが出た。見学は16時50分に終了した。</p> <p>集合写真撮影後17時に現地を出発し、17時55分に神領駅に到着して解散した。</p>		
	 		

企業現場教育 報告書

実施日	2019年 12月 23日 (月)		
訪問先企業名	自然科学研究機構 核融合科学研究所		
参加者	大学院博士前期課程(1年次)	参加人数	26名(うち引率2名)
引率者氏名	廣岡 慶彦 (工学部 創造理工学実験教育科 教授)		
内容	<p>大学院工学研究科の「原子力工学特別講義」学外実習として、2019年12月23日(月)午前8時半にJR神領駅で一次集合、本学三浦記念ホールで午前9時に二次集合して、核融合研に向かい9時半頃から約2時間半に渡ってLHD(大型ヘリカル核融合実験装置)を中心とした施設見学ツアーを実施し、同日、午後1時頃に三浦記念ホールに帰還した。</p> <p>この見学ツアーに先立って同年12月18日(水)に核融合科学研究所長には、工学研究科講演会として核融合研究全般および核融合科学研究所のLHDについて講演して頂いたので、参加学生は、十分な予備知識を持って本見学ツアーに臨むことができたと考えられる。</p> <p>見学当日、LHDが運転中ではなかったため、放射線管理区域にある本体棟にも入る事が出来、LHD本体を見る事が出来た事は、核融合施設の実際のスケールを理解する上で参加した大学院生にとって貴重な体験であったと思われる。</p>		
	 <p>LHD 装置 (鳥瞰図)</p>		 <p>本体棟での記念撮影</p>

企業現場教育 報告書

実施日	2020年 2月 14日 (金)		
訪問先企業名	大王製紙(株)可児工場		
参加者	工学部 EE EC 2・4年生、博士3年生 応用生物学部 FS 2年生、修士2年生	参加人数	23名(うち引率3名)
引率者氏名	廣塚 功 (工学部 電気電子システム工学科 教授) 中村 雅憲 (工学部 電気電子システム工学科 教授) 吉田 康宏 (工学部 教育技術部 教育技術員)		
内容	<p>大王製紙(株)の製造ライン関連の維持保全を行っているダイオーエンジニアリング(株)の担当者が中心となり、大王製紙(株)可児工場におけるトイレットペーパーおよびティッシュペーパーの製造行程を見学した。</p> <p>高速で紙送りする装置は、シーケンサーにより制御されており、かなりの自動化が進んでいた。</p> <p>これにより、工場での作業人数の低減、カメラなどによる監視システムによる作業の効率化が著しく進められており、工場内の安全対策および作業者に対する安全教育も十分行われ、見学者一同、リスク管理のあり方などを勉強することができた。</p> <p>さらに、自家発電設備の設置、工場排水処理、煤煙処理、騒音対策なども徹底されており、地域活性化に様々な形で取り組んでいる実例を知ることができた。</p> <p>以上のように、見学者一同、当該見学会の主旨を全うできた。</p>		
			

企業現場教育 報告書

実施日	2019年 10月 2日 (水)		
訪問先企業名	浅野撚糸株式会社		
参加者	経営情報学部 経営総合学科 1年生	参加人数	20名(うち引率2名)
引率者氏名	山口 直樹 (経営情報学部 経営総合学科 教授) 趙 偉 (経営情報学部 経営総合学科 教授)		
内 容	<p>バスにて浅野撚糸株式会社様を訪問し、企業現場教育を実施した。</p> <p>現地では、最初に会議室にて、社長による講話を行った(60分)。</p> <p>浅野撚糸は下請けの撚糸業として操業していたが、2000年代に入ってから中国との競争激化により受注は急減し、廃業の危機に瀕したが、魔法のタオルといわれる「エアーカーン」を開発し大成功をおさめ、全国に知られる企業となった。その間の経営者としての社長の行動や思いを熱く語っていただき、迫力のある社長のお話に参加者は熱心に聞き入っていた。</p> <p>次に、工場内の見学(30分)を行った。撚糸の製造過程の説明・見学を行い、水溶性の糸をより合わせる行程などを間近にみたりすることができた。その他の一連の生産行程や直売所の見学をしたりした。その後、会議室に戻り、社長との質疑応答が行われ、経営者としての心構えについてなど、学生が活発に質問をし、社長からは丁寧な回答をいただき、予定時間をオーバーして終了した。</p>		
			
	見学写真		集合写真

企業現場教育 報告書

実施日	2019年 10月 23日 (水)		
訪問先企業名	株式会社コムラ		
参加者	経営情報学部 経営総合学科 1年生	参加人数	21名(うち引率2名)
引率者氏名	山口 直樹 (経営情報学部 経営総合学科 教授) 趙 偉 (経営情報学部 経営総合学科 教授)		
内容	<p>バスにて株式会社コムラ様を訪問し、企業現場教育を実施した。</p> <p>現地では、最初に会議室にて社長様による講話を行った。講話では、印刷業界は単に印刷物の印刷を行うだけでなく、クリエイティブな産業であること、また、自社について会社概要だけでなく、若い人のアイデアによって多方面に事業を拡大していることなどの自社の魅力や働きがいなどについてのお話があり、学生は熱心に聞き入っていた。</p> <p>次に、社内や工場内の見学を行った。工場での一連の生産工程についての説明に加え、文系学生の仕事場となる、総務部や営業部といったオフィス内も見学させていただき、社員が実際にどのような仕事をしているのかについてのお話を各部署でいただいた。</p> <p>その後、会議室に戻り、学生3~4人で1グループになり、そこに若手社員の方が2名ずつ入って座談会を行った。</p> <p>座談会では、学生と社員との間で、業界のことや会社のこと、仕事の魅力から就職活動の体験談まで、活発な話し合いが行われた。</p>		
	 		

企業現場教育 報告書

実施日	2019年 9月 11日 (水)		
訪問先企業名	岐阜放送、岐阜新聞		
参加者	コミュニケーション学科、 放送研究会の学生、生命医科学科	参加人数	14名(うち引率1名)
引率者氏名	三摩 真己 (人文学部 コミュニケーション学科 教授)		
内容	<p>午前中、岐阜放送訪問、総務局主任の案内でテレビスタジオ、ラジオスタジオ、ニューススタジオを見学。また岐阜放送が伊勢湾台風を教訓に岐阜県域に災害情報を伝えるメディアとして出発したという歴史の説明を受けた。さらに力を付けつつあるSNSとの連動などについても今後の戦略等をうかがった。</p> <p>午後からは、岐阜新聞を訪問。今回は岐阜新聞総務局副部長に加えて、着任早々の共同通信岐阜支局長も説明に加わっていただいた。(共同通信の各支局は共同通信に加盟している地方新聞の本社内にあることが多い。)</p> <p>最初に新聞の制作過程を紹介するビデオを見た後、取材を担当する報道部で遊軍記者(去年の新聞協会賞受賞者)から企画記事の具体的な内容について説明を受けた。続いて編集局で紙面のレイアウトについて説明を受けた。11日は米同時多発テロの起きた日でもあり、当時、ドイツに駐在していた共同通信支局長からイスラムのテロリスト養成の裏側などについて解説をしていただいた。また当日行われた内閣改造に合わせ、地元出身の国会議員が大臣に任命されたときの関連取材のありかたなどの説明を受けた。</p>		
	 		

企業現場教育 報告書

実施日	2019年 9月 10日 (火)		
訪問先企業名	ひだホテルプラザ		
参加者	応用生物学部 食品栄養科学科 1、2年生	参加人数	53名(うち引率2名)
引率者氏名	小川 宣子 (応用生物学部 食品栄養科学科 教授) 小林 由実 (応用生物学部 食品栄養科学科 助手)		
内容1.	<p>1. ひだホテルプラザ取締役会長から以下の内容について講義を受け、質疑応答を行った。</p>  <p>1) <u>ホテルにおけるリスク管理について</u> 衛生面や災害に対するホテルの取り組みについて詳細な説明がなされた。</p> <p>2) <u>地域活性化への取り組みについて</u> ホテル産業界において地域活性化に向けて観光客に対して、高山の文化や特産物を活かしての特に外国人に対する取り組み紹介。</p> <p>2. ホテルの館内見学により、講義の中ででてきた内容を実際に確認することができた。</p>  <p>3つのグループに分かれて、以下の内容について見学を行った。</p> <p>1) <u>機械室の見学:災害時の対策(自家発電など)</u></p> <p>2) <u>客室の見学:バリアフリー</u></p> <p>3) <u>浴室の見学:衛生面</u></p> <p>3. 高山市街の見学</p>  <p>高山市街地を見学することで高山における観光の状況を理解することができた。</p> <p>【スケジュール】 大学：メモリアルホール (8:30) ⇒神領駅北口 (8:45) ⇒ひだホテルプラザ (12:00) ⇒昼食⇒講義及びホテル内の見学 (13:00) ⇒高山市内見学 (15:00) ⇒高山 (16:00) ⇒神領駅 (19:00) ⇒大学 (19:15)</p>		

企業現場教育 報告書

実施日	2019年 12月 18日 (水)		
訪問先企業名	東濃ヒノキ白川市場協同組合		
参加者	応用生物学部 環境生物科学科 4年生、院生	参加人数	9名(うち引率1名)
引率者氏名	上野 薫 (応用生物学部 環境生物科学科 准教授)		
内容	<p>本年最後の入札が終了したばかりで値札が原木に貼ってある現場にて、協同組合の理事、市場長、林産部の上野研卒業生、買い付けに来ていた製材所の方より随時質問を受けつつ、説明を受けた。市場は隔週で開催される。</p> <p>当日は約 1400m³のうち約 1300m³が売却された。競りではなく、入札方式。</p> <p>当日の最高値は、160 年齢のヒノキであった。平成元年から比べると木材の価格はトラック一杯 100 万円であったが、今は 8 万円ほどで下げ止まり。本市場での年間の平均価格は 15000 円/m³。これだと、山主には切り出して市場に持ち込むまでの経費くらいにしかない。材には高級な順に A～C のランクがあり、A が建材用、B が合板用、C がパルプ・バイオエネルギー用。A の需要確保が難しいとのこと。B、C の需要は伸びているがあまり高値では売れないので利益は少ない。</p> <p>国や県の補助金で、この市場の大型機材や周辺の製材所などが導入され、人材育成も始まっており、上野研卒業生もそのような教育を受けて育ってきた一人。</p> <p>市場で働く人たちも若者が多く、国の政策が反映されていることが実感できた。</p> <p>現在、国は、間伐ではなく皆伐と造林をセットで進めようとしているが、切り出しからの木の需要そのものが確保されていないので、その点が課題であるという。</p> <p>補助金がなくても、利益が生まれるようになるには相当の改革と時間がかかると感じた。国産材の輸出が一時期よい方向にあったが、トランプ政権になってから、関税問題が影響して現在少し停滞している。白川町は、都会からの若い夫婦の移入もあると</p>		

のこと。これまでの林業の衰退しきった段階のこのようなコミュニティと、現在は実際には違ってきていることを実感した。

実際に上野研卒業生もこの地域に住み着き、家族を増やし、地域と直結して山で働いている。これからの岐阜県の林業界には希望もあることが分かった。協同組合の会長は地域の猟友会の会長でもあり、獣害についても話を聞くことができた。

学生たちは、それぞれに質問をしながら、感じる場所があったようである。

今回の学生は先週「森の健康診断」に参加したばかりであり、伐採された木がどのようになっているか、社会に出ていくのか、価格はどうか、利益はどのように配分されるのかなど、具体的に知ることができ、連動したよい学びになったと思う。

中には、来年から森林組合で働く者や、卒業後に市民活動として獣害対応や森林保全に貢献しようとしている学生もいるため、社会での地域活性化への貢献、リスク管理の点においても重要な学びもあったと考えている。

現地には森林組合と製材工場、バイオエネルギープラントが隣接していた。

このプラントは、日本でも有数の初期に設置されたさきがけの施設とのこと。市場長には、次回は森の中の見学や、これら施設の見学もぜひと言われたので、ぜひ企画したい。



企業現場教育 報告書

実施日	2020年 2月 14日 (金)		
訪問先企業名	アピ(株) 池田工場		
参加者	応用生物学部 FR、FS、FT 2・3年生	参加人数	21名(うち引率2名)
引率者氏名	大塚 健三 (応用生物学部 環境生物科学科 教授) 鈴木 孝征 (応用生物学部 応用生物化学科 准教授)		
内容	<p>応用生物学部の2年生と3年生をアピ株式会社の池田工場に引率し、企業現場教育を行った。</p> <p>工場に到着後、アピ株式会社の業務内容をビデオで紹介された。</p> <p>ついで2班に分かれ、工場内の見学を行った。</p> <p>アピ株式会社の池田工場では主に食品サプリメントの加工を行っており、有用成分をソフトカプセル、ハードカプセル、錠剤などの形へと加工する様子を見学した。</p> <p>工場内の案内は主に2019年度に入社した社員によって行われ、学生も親しみをもって接することができた。</p>		
			

企業現場教育 報告書

実施日	2020年 2月 17日 (月)		
訪問先企業名	(株)林 本店		
参加者	応用生物学部 FR、FS、FT 2・3年生	参加人数	36名(うち引率3名)
引率者氏名	前野 善孝 (応用生物学部 食品栄養科学科 教授) 和田 俊夫 (応用生物学部 食品栄養科学科 教授) 可児 由香 (応用生物学部事務室 担当課長)		
内容	<p>予定通り大学を出発。神領駅でも学生を乗せ(株)林本店に向かった。</p> <p>参加予定学生 34 名中 1 名の当日欠席があり、引率者 3 名を含め、36 名が予定時刻に林本店に到着した。</p> <p>到着後、会議室で社長様のご挨拶の後、製造本部長様より会社の歴史、独自の醸造法、さらに林本店独自の生産過程における危機管理についての説明を受けた。</p> <p>その後、工場内に移動し、米の研ぎ方の実演、発酵中のタンクを見学しながら、説明を受けた生産過程の危機管理について理解した。また、少人数で1年中生産できる独自の働き方改革については、興味深いものであった。</p>		
			
			

企業現場教育 報告書

実施日	2020年 2月 25日 (火)		
訪問先企業名	JAPAN TESTING LABORATORIES 株式会社 本社		
参加者	応用生物学部 FR、FS、FT 2・3年生	参加人数	29名(うち引率2名)
引率者氏名	前島 正義 (応用生物学部 応用生物化学科 教授) 堀部 貴紀 (応用生物学部 環境生物科学科 講師)		
内容	<p>学生 27 名と JAPAN TESTING LABORATORIES(株) の本社を訪問。ほぼ予定通りの時間に現地に到着した。事業本部事業推進チームの方が出迎えてくれ、案内をしてくださった。まず会議室にて会社の事業内容についての説明を受けた(この時、学生複数名に対し「この会社を訪問しようと思った理由」について質問があった)。説明された内容は、企業の歴史、文理比率、社会における役割(企業としての使命)などである。説明後、全員で社内を見学。見学した場所は、計測部と分析部の分析室である。各部署では設置されている機器や具体的な分析項目についての説明を受けた。見学後は会議室に戻り、企業での働き方(営業職と技術職)についての説明を受けた。その後、学生から企業や業務内容に関して自由に質問をする時間が設けられた。複数名の学生と教員から質問が行われた。質問内容は、採用条件(大学在学時の専門)、労働条件(残業時間、繁忙期、勤務地)、働きがい、従業員の男女比率、企業の経営方針などに関するものなどである。質疑対応後、会社正面にて集合写真を撮影し、JAPAN TESTING LABORATORIES(株)を後にした。</p> <p style="text-align: center;">【説明会の様子】</p> <p style="text-align: center;">【工場正面にて】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

企業現場教育 報告書

実施日	2020年 2月 26日 (水)		
訪問先企業名	東濃ヒノキ白川市場協同組合		
参加者	環境生物科学科 2・3年生	参加人数	9名(うち引率2名)
引率者氏名	上野 薫 (応用生物学部 環境生物科学科 准教授) 森山 昭彦 (応用生物学部 環境生物科学科 教授)		
内 容	<p>予定通り9時に大学出発、10時20分に現地着。協同組合の理事、上野研卒業生より、挨拶をいただき、さっそく車で20分ほどの皆伐実施現場へ移動。現地は整備された林道のある森林であったが、現場事態は急斜面かつ岩が点在しており、作業の難しい環境だったようである。この現場は私有林(山主は名古屋在住)であり、管理ができないので土地を売却するために、その植栽木の伐採を協働組合で引き受けたとのこと。間伐作業は通常は、1m²あたりの価格で作業工賃が支払われるため、どんなに伐採が難しい立木や環境であっても価格は同一。一度間伐作業業者が引き受けたが、放棄されてしまったため、組合が引き受けることにしたそうである。現場の状況を組合が読み価格を設定しており、損はしていないとのこと。市場を有する組織であり、かつ自社で間伐作業ができるからこそ、このような対応ができる。皆伐後、この斜面がどのような森林になっていくのか、何を目指すべきと思うのか、など現場を見ながら議論した。</p> <p>現場を12時過ぎに離れ、市場に戻り、屋内食堂にて昼食をとった。食堂の脇ではまさに入札が行われている最中であり、どのように実際に入札が進められるのかが、声から理解できた。その後13時より14時半まで、市場に並ぶ丸太を詳細な説明とともに見学。</p> <p>本日は約 1600m³ が売却された。国や県の補助金で、市場や間伐作業に使う重機を購入しているとのこと。学生たちは、それぞれに質問をしながら、未知の世界を少し実感できたようである。今回の学生の多くは12月に「森の健康診断」に参加しており、伐採された木がどのようになって社会に出ていくのか、価格はどう決まるのか、利益はどのように配分</p>		

されるのかなど、具体的に知ることができ連動したよい学びになったと思われる。

林業におけるもっとも重要なリスク管理は、作業者の安全の確保だと語っていた。

次に大事なものは、合理化(機械化)による作業者への利益還元の仕組みを変えていくことであるとも。

若者が減る中、いかにこの業界で粘り強く働く次世代を残していくかが業界存続のための大きな問題である。このような考え方は、林業にとどまらず他の業界での地域活性化への貢献やリスク管理の点においても共通的な視点であろう。

森林現場にて、実際に働く本人からの説明を受けることは、学生から自然に質問が飛び出す様子から察すると、大変意味のあることである。林道を進むためにバスサイズが限定され、また、安全確保の点からも今回の募集規模になってしまうが、本物を見て感じる事が重要であることを再認識した。また、環境生物科学科の卒業生が、このような専門的かつ技術的な仕事にやりがいを感じ、地道かつ戦略的に取り組んでいるその様子を見ることができ、学生たちはよい刺激にもなったように思う。インターンシップなどにも対応可能とのことであったので、今後とも学生のためにより付き合いをしていければと思っている。



企業現場教育 報告書

実施日	2019年 9月 17日 (火)		
訪問先企業名	(株)今仙技術研究所		
参加者	生命健康科学部 生命医科学科 1、2、3年生 スポーツ保健医療学科 3年生	参加人数	21名(うち引率2名)
引率者氏名	青山 友佳 (臨地臨床実習推進部 臨床検査技術教育・実習センター 講師) 藤丸 郁代 (生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 准教授)		
内容	<p>岐阜県各務原市にある(株)今仙技術研究所にて企業現場教育を行った。</p> <p>今仙技術研究所では、電動車いす・義足や義手・スポーツ義足・歩行補助装置・介護ロボットの開発や製造を行っている。研究所の沿革や企業理念、製品について説明を受けた後、2グループに分かれて、研究所内の見学および電動車いす・スポーツ義足の体験を行った。</p> <p>日常生活にて使用する義足では、使用者の生活スタイルによって、ひざの曲げ伸ばしを自由にできるタイプと必要な時に曲げるタイプがあり関節部分の構造が重要なポイントであることの説明を受けた。また、パラリンピック出場選手が使用しているスポーツ義足の説明では、実際にスポーツ義足を装着し、使い心地を体験した。学生からは競技に使用する義足の素材や形について活発な質問がされた。</p> <p>電動車いすにおいては、製作過程やメンテナンス現場の見学および説明を受けた。体位変換が行えるタイプの電動車いすは体圧を逃して血流を循環させ褥瘡を防ぐなど、障害によって使用の範囲が違ふことや利用者の希望に合わせてカスタマイズされていることを知った。また、実際に、屋外にて電動車いすの操作を体験した。道路環境など障害者を取り巻く環境について深く学んだ。</p>		
			

(4) フィールド活動@ぎふ

フィールド活動@ぎふ 報告書 (1)

実施日	2019年 9月 11日 (水)		
訪問先企業名	JAひだ高山営農センター、橋場農園、高山市街地		
参加者	食品栄養科学科管理栄養科学専攻1年生 歴史地理学科2年生、 都市建設工学科2・3年生	参加人数	14名 (うち引率 2名)
引率者氏名	小川 宣子 (応用生物学部 食品栄養科学科 教授) 丹羽 ゆかり(生涯学習推進課 担当課長)		
内容	<p>1) 高山市の農業の現状と課題</p>  <p>①講義: 学生が高山市の課題を考え、その課題解決を考えるために、高山市役所では、高山市農務課長様から高山市の農業の現状と課題について、冊子「高山市の農業の現状と課題の解決に向けた取組み」とパワーポイントを使つての講義を受け、質疑応答を行いました。</p>  <p>②現場見学: 高山市の農業の実態についてトマトとしいたけを生産している橋場農園の代表から農場の取り組みについてお話をいただきました。トマトとしいたけの圃場見学およびトマトの加工工場の見学と試食を行い、生産者の生産への取り組みについてお話をいただきました。</p> <p>2) 高山市の文化を理解する。</p>  <p>①講義: 高山の町の成り立ちについて本学森瀬一幸客員教授から、冊子「飛騨高山のまちづくりの姿の中から考える」と資料を使つての講義を聴講。</p> <p>②高山市街地見学: 高山市の生活の背景にある文化を体験するため、法華寺～二の丸～宗和流好みの庭園を見学し、金森氏による街づくりや茶道が高山に影響を与えていることを理解することができました。</p> <p>3) 高山市の課題と解決方法について学生がそれぞれ提案した内容を高山市農務課に提出。</p>  <p>【スケジュール】 大学: メモリアルホール (7:45) ⇒ 神領駅北口 (8:00) ⇒ JAひだ高山営農センター (11:00) ⇒ 昼食⇒橋場農園・見学 (13:30) ⇒ 高山市街地見学 (15:00) ⇒ 高山 (17:00) ⇒ 神領駅 (19:15) ⇒ 大学 (19:30)</p>		

フィールド活動@ぎふ 報告書 (2)

実施日	2019年 12月 7日 (土) ~ 8日 (日)		
関係先企業名	土岐川・庄内川 森の健康診断実行委員会(市民団体)		
参加者	応用生物学部 3・4年生 工学部 2・3年生 人文学部 1年生	参加人数	39名 (うち引率 3名)
引率者氏名	上野 薫 (応用生物学部 環境生物科学科 准教授) 森山 昭彦 (応用生物学部 環境生物科学科 教授) 余川 弘至 (工学部 都市建設工学科 講師)		
内容	<p>テーマ:「里のイノシシ問題解決に向けて ~豚コレラとどう向き合うか~」</p> <p>12月7日(土) 10:00 開会式 10:30~11:00 行政:岐阜におけるイノシシの状況、豚コレラ対策について 11:00~11:30 地元:地元猟友会としての対応、住民としての対応、意識 11:30~12:00 上野:イノシシの生態、森林管理の変遷、恵那の森林の状態 12:00~12:40 昼食 13:00~13:30 調査方法の説明 13:50~14:30 恵那キャンパス内にてイノシシ痕の観察、森林の観察 15:00~ 各チームでプロジェクト提案の作成開始(適宜風呂 17:00~18:45) 19:00 夕食 19:40~23:30 グループワーク(随時就寝)</p> <p>12月8日(日) 7:20 朝食、部屋掃除、チェックアウト 8:30 発表準備(@第4研修室) 9:30 プレゼンテーション(発表会) 10:30 意見交換会、地元や関係者からのアピール、集合写真、片づけ</p>		



図1 座学の様子



図2 森林調査の様子



図3 グループワークの様子

12:00 昼食(恵那研修センター)、片付け

13:00 現地見学会(間伐経験)

16:00 閉会

16:30 現地解散

以上のスケジュールにて、予定通りのプログラムを実施した。岐阜県の農林担当者や地元三郷町役場の担当者、地元および下流域の地域活性化キーマンらとの発表会での意見交流や間伐体験実施等による現場での問題の理解・共有により、解決のために地元がどれくらい必死なのか、何か障害なのかなど、生の現地の状況を実感した。今年は、特に「豚コレラ」の岐阜県での現状を猟友会会長と県担当者、実際に協力している地元の市民から話を聞いた。岐阜県の中でも恵那市はとくに、狩猟対象がイノシシに集中していることを学び、豚コレラやイノシシによる被害が、現地では大きな問題であることを理解した。さらに、恵那研修センター内の森林でも多数のイノシシ痕が確認され、人工林が過密な状況で何が生じているのかを自身の感覚

により理解することができた。夕方からのグループワークでは、短期決戦型ではあったが、グループ単位での行動や濃厚なワーク実施により、コンセンサス力、問題把握力、情報収集力、コミュニケーション力が向上されたと思われた。今回も、グループ内に複数の学科や様々な学年がおり、バランスのとれた人員構成になっていたこと、引率教員も3学科からの構成であったことも、学生の前向きな学びに貢献していたと思われる。発表会では、各方面の評価者から、「よい案ばかりなのでより深く検討し実施に向かってもらいたい」との高評価を得た。これまでの5回の中で最も質の高い提案であった。最後の現地見学会では多くの時間はとれなかったが、実際の人工林管理には高度な技術が必要であることが理解され、理想と現実の間にある課題を理解することができたと思われる。



図4 プレゼンテーションの様子



図5 現地見学会の様子



図6 集合写真

(5) 企業向け発表会 中部大学学生力体感会 2019



中部大学ステークホルダー交流会

中部大学学生力 体感会2019

発掘!
中部の
イチバン星

自ら積極的に様々な課外活動に
取り組む事によって大きく成長した
学生たちと交流していただくイベントです。
ぜひご参加ください。

2019.11.15(金)15:30～

中部大学 不言実行館 2階 スチューデント・コモンズ

ごあいさつ

中部大学は、7学部と大学院6研究科を有する総合大学として、学生の学びにおいては、専門の分野にとどまらず、幅広い視野からの創造力と人間力をつけることを大切にしています。

体験競技に例えるなら、正課教育(大学での授業)を規定演技と捉えています。情報革命をはじめとして、大きな変革の時代、グローバルな世界で学生が力強く生き抜いていくために、自分で筋道を立て、考え、行動していく。正解のない課題に対して、チャレンジする勇氣と実行力を兼ね備えた人材として立って行く。

まだまだ未完ではありますが、本学学生が取り組んでいる自由演技をご覧いただき、ステークホルダーの皆様から忌憚のないご意見、アドバイスをいただければ幸いです。

中部大学長 石原 修

プログラム

- 14:30～ 受付
- 15:30～15:40 主催者挨拶
- 15:40～17:10 代表学生によるプレゼンテーション(質疑応答)
- 17:20～18:00 代表学生によるポスターセッション、発表者との交流会

Program

プレゼンテーション

1. 図書館サポーターの3年間の歩み

チャレンジャーサイト
「図書館サポーター～学生協働による図書館の魅力UPプロジェクト～」
人文学部心理学科 3年 中井 美沙 (岐阜県東京大学児高校)
工学部機械工学科 4年 和田 綾香 (岐阜県立長良高校)
工学部歴史地理学科 4年 平井 直生 (岐阜県立長良高校)

私たちは図書館の活性化を目標とし、今年で3年目を迎えます。企画展示や読書祭の開催、サポーター一連の作成を行い、学生の関心と協力を得ながら、学内での活動の場を拡げてまいりました。また、他大学の交流を行い、各校の活動の事例について学びました。

2. 成長し続ける団体

ボランティア・NPO センター
工学部機械工学科 4年 伊藤 優希 (愛知県立岡崎北高校)
工学部歴史地理学科 4年 新木 龍斗 (愛知県立豊田高校)
人文学部歴史地理学科 4年 山田 真志 (愛知県立一宮南高校)

当センターの主役は学生自身です。学生が主体となり企画立案から運営、評価改善まで総合的に関わります。また、外部団体様をはじめ多くのご依頼に可能な限りお応えできるように学生リーダーを中心として運営しています。今年度設立15周年を迎える当センターの成長の軌跡と今後見込める成長を目指す学生の取り組みをご紹介します。

3. 大学広報誌『ウプト』の学生編集委員～発行までの裏側～

ウプト学生編集委員
大学院工学研究科 ロボット・理工学専攻修士課程2年 二村 龍太 (愛知県立刈谷工業高校)
工学部歴史地理学科 3年 中野 大輝 (愛知県立刈谷工業高校)

中部大学広報誌『ウプト』の編集の一環を担っています。多くの方に楽しく読んでいただけるよう、学生目線で企画、取材、撮影、原稿執筆などを行っています。自分たちの取材した内容を実際に掲載されるので責任は重大です。この機会に発行までの裏側を発表します。

4. 地域活性化リーダーを目標して

COC+事業 文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」
工学部都市建設工学科 3年 初山 大和 (岐阜県立刈谷工業高校)
工学部都市建設工学科 3年 伊藤 寛人 (岐阜県立大垣工業高校)
工学部都市建設工学科 3年 川崎 美奈 (愛知県立若草高校)

地域活性化リーダーは、岐阜県を通して地域の良さを知り、その特徴を生かし、学生を認定される次世代のリーダーとして、自ら考え行動する力を身につけた学生を認定される資格です。資格取得に向けたさまざまな課外活動に取り組んだ過程と成長を発表します。

5. コモンズサポーターの経験から学んだこと

コモンズサポーター
大学院生命健康科学研究科 大学院工学研究科 生命医科学専攻博士前期課程1年 考藤 卓也 (岐阜県立可児高校)
工学部歴史地理学科 1年 情報工学科専攻博士前期課程1年 後藤 百領 (新潟県立佐藤中等教育学校)

コモンズサポーターはコモンズサポーターと呼ばれる学部生が運営しています。私達は現在大学院に進学していますが、コモンズサポーターとして活動していた際の学びや気づき、工夫してきたこと、後輩たちの様子などを、一緒に活動していた3名で発表します。また、この活動で得たものを、現在の研究活動でどの様に生かしているのかもお伝えします。

6. インタラクションを通じた横の関係を

正課科目インタラクションへの参加
工学部機械工学科 4年 田口 峻毅 (愛知県立津島工業高校)

本校では正課科目としてのインタラクション研修があります。学内で事前研修を行ってインタラクションAIと、企業や官公庁等で就業体験を行う「インターンシップ」から構成されています。インタラクションを通して得た気づきや経験、どのような役に役立っているか学生目線でお伝えします。

7. 地域やリーグ等で行われるイベントに対する救済ボランティア活動について

COC+事業 中部大学 EMS 研究会
生命健康科学部スポーツ保健医療学科4年 生動健康科学部スポーツ保健医療学科4年 堀野 直太 (山梨県立韮崎高校) 堤 真一郎 (長野県佐久長岡高校)
生命健康科学部スポーツ保健医療学科2年 鈴木 家斗 (福井県立若草高校)

中部大学EMS研究会は2016年に、病院前救急医療に関する知識や実技の習得を学生の垣根を超えて共有・継承として実施しました。学内で行われるスポーツ大会や学園祭での救急活動のほか、地域やリーグ等で行われるイベントに対する救済ボランティア活動に積極的に参加しています。

8. 大学生活での成長～電気カーットの製作を通して～

チャレンジャーサイト
「電気カーットの製作およびEVフェスティバルの入賞」
工学部電気システム工学科 4年 水野 湧人 (愛知県中部大学春日丘高校)
工学部電気システム工学科 4年 工学部電気システム工学科 4年 新井 大輝 (愛知県立西尾高校) 福永 竜也 (愛知県立豊橋南高校)

私たちはチャレンジャーサイトの受注を受け、11月に開催される日本EVクラブ主催の「日本EVフェスティバル」に向けて、電気カーットの改良を重ねています。過去の最高成績は、クラス順位4位、幅広く表彰を獲っています。今年度は「バッテリーマウント」を改良し、バッテリー交換時のタイムロスを無くすことができると、優勝を目指します。私たちの活動をサポートしていただけるスポンサーを募集しております。

9. 所感と再考～真の国際人になるために～

中部大学 ESD-SDGs 研究・活動発表会
国際関係学部国際学科 3年 新川 真や (愛知県名古屋経済大学高蔵高校)

わたしは将来、人に寄り添いながら生きていきたいです。この発表では、国際学科での勉強と海外体験、人との出会いから学んだことを自分の視点から伝えます。世界のあらゆる問題について、解決が迫られる世代の一人として、“世界をもっとよくしたい”ただそれだけなんです。

ポスターセッション

1. 自身の成長とESD-SDGs

中部大学 ESD-SDGs 研究・活動発表会
工学部応用化学学科 3年 島部 依希 (愛知県立岡崎北高校)
経済情報学専攻経営経営学専攻 4年 藤部 夢大 (愛知県立春日井南高校)

2. ESDと私の大学生生活

中部大学 ESD-SDGs 研究・活動発表会
国際関係学部国際学科 3年 鈴木 夏乃 (愛知県立豊橋南高校)

3. 図書館サポーターの3年間の歩み

チャレンジャーサイト
「図書館サポーター～学生協働による図書館の魅力UPプロジェクト～」
人文学部心理学科 3年 中井 美沙 (岐阜県東京大学児高校)
工学部機械工学科 4年 和田 綾香 (岐阜県立長良高校)

4. 大学生活での成長～電気カーットの製作を通して～

チャレンジャーサイト
「電気カーットの製作およびEVフェスティバルの入賞」
工学部電気システム工学科 4年 水野 湧人 (愛知県中部大学春日丘高校)
工学部電気システム工学科 4年 新井 大輝 (愛知県立西尾高校)
工学部電気システム工学科 4年 福永 竜也 (愛知県立豊橋南高校)

Presentation

Poster Session

企業向け発表会 中部大学学生力体感会 2019 の様子

日 時： 2019年11月15日（金） 15時30分～18時

場 所： 中部大学 不言実行館2階 スチューデントコモンズ

発表者： 工学部 都市建設工学科 3年 新山大和，伊藤寛人，川崎愛弥，神野稜太

テーマ： 「地域活性化リーダーを目指して」



発表の様子



発表の様子



ポスターセッション



ポスターセッション



質疑応答



集合写真

(6) 地域活性化リーダーポスター発表&授与式



文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+事業) (平成27年度採択)
『岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成』

第4回 地域活性化リーダー ポスター発表会&授与式

日時：2020年3月10日(火曜日) 午後2時00分～午後3時00分

会場：中部大学 不言実行館 2階 スチューデントコモンズ

14時00分～14時05分

開会挨拶 松尾 直規 (中部大学 COC推進センター長)

14時05分～14時35分 (30分間)

学生によるポスター発表

14時40分～14時55分

地域活性化リーダー認定証 授与式

14時55分～15時00分

閉会挨拶 櫻井 誠 (中部大学 COC推進センター副センター長)

■学生によるポスター発表 (18名)

NO	学科	学年	氏名
1	都市建設工学科	3年	柿田 陸
2	都市建設工学科	3年	高田 謙太
3	都市建設工学科	3年	谷口 蓮
4	都市建設工学科	3年	ダダボエブ アフロル
5	都市建設工学科	3年	藤井 祐斗
6	都市建設工学科	3年	藤田 涼子
7	都市建設工学科	3年	宮崎 奨平
8	都市建設工学科	3年	山田 一斗
9	都市建設工学科	3年	山本 慶哉
10	都市建設工学科	3年	吉戸 勇太

NO	学科	学年	氏名
11	都市建設工学科	2年	伊藤 大晟
12	都市建設工学科	2年	川本 宜論
13	都市建設工学科	2年	北川 礼佳
14	都市建設工学科	2年	種瀬 香凜
15	都市建設工学科	2年	松島 伶維
16	都市建設工学科	2年	松永 実和
17	都市建設工学科	2年	横山 千尋
18	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	3年	高阪 理名

** 中部大学 国際・地域推進部 生涯学習推進課 **

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地

Tel:0568-51-1763

第4回 地域活性化リーダーポスター発表会の様子



3. 活 動 報 告

< 5 大学共通プログラム >

(1) サマースクール

サマースクール

2019 In ひた

ぎふCOC+事業推進コンソーシアムは、岐阜県における若者の地元定着率を上げることを目的として、岐阜県内の企業と大学生との接点増加を試み、産業界ニーズにより適した人材を育成する教育プログラムを各大学において実施しています。その一環として、大学間共通のサマースクールを岐阜県飛騨圏域で開催します。このプログラムでは、地域を支えている方々や他大学の学生と一緒に地域「将来」を考えていきます。地域の現状や地元企業の理解を深め、自分の能力を磨いて、今後のキャリアの選択肢を広げましょう。

年間50万人を超える外国人観光客が訪れる高山市。インバウンドの成功事例としても注目される中、国内の宿泊を伴う観光客は伸び悩んでいます。また、東京都と同程度の広大な土地を持ちながら、その自然観光資源が十分に活用されていない課題があります。自らの目で資源に触れて活用方法を考えましょう。

自然観光資源を活用して
若者観光客を集める



薬草の活用に積極的な飛騨市。今では、市内に自生する薬草資源を活用したイベント「薬草フェスティバル」が行われるほど、この地域の文化として根付いてきています。この薬草を通じて、結ばれていったコミュニティと触れ合いながら、薬草の有効活用と市民団体との交流について考えます。

薬草の有効活用と
市民団体との交流を考える



農村滞在体験から
住み継がれる地域を考える

下呂市では、地域おこし協力隊やイベントの開催など、移住したくなる様々な取り組みを行っています。しかし、課題は少なくありません。そこで今回は農村滞在を体験しつつ、実際に移住された方々に会う・地場産業を知るなど、地域の現状に触れ、人を呼び込み、暮らし続けるための仕組みを考えます。



白川村のここが「いいね！」
観光客と住民の思いをつなげよう

白川村を訪れる観光客の半数が外国人。世界遺産への登録もあって観光客の多様化はどんどん進む一方です。一方で、白川村は住民の暮らす生活の場でもあります。観光客が見たい白川村と、住民が見て欲しい白川村、2つをつないで持続可能な地域を目指すための取り組みを考えます。

※このサマースクールは、中部大学認定「地域活性化リーダー」資格取得に必須です。

参加費

8,000～10,000円程度 ※当日徴収します。

※ 2泊分の宿泊費と食費(部分)。1日目の昼食は各自負担です。
 ※ 各コースによって、宿泊先や食事の内容が異なるため自己負担額が若干変わります。

持ち物

洗面用具、着替え、筆記用具、健康保険証(コピー可) など

※ 宿泊先施設の備品など、詳細はコース毎のしおりをご覧ください。しおりはコース決定後にお渡しします。

集合

J R 岐阜駅

※ 集合場所からはすべてバスでの移動となります。詳細は、参加コース決定後に、個別にご連絡いたします。

コース概要

A.高山市コース	国立乗鞍 青少年自然の家 8月26～28日 参加費 8,000 円 住所 高山市岩井町913-13 電話 0577-31-1013	B.飛騨市コース	やまびこ館 8月26～28日 参加費 10,000 円 住所 飛騨市河合町1598-1 電話 0577-65-2466
C.下呂市コース	ソラノイエ 9月3～5日 参加費 10,000 円 住所 下呂市蛇之尾1345 電話 0576-20-4093	D.白川村コース	トヨタ白川郷自然学校 9月3～5日 参加費 8,000 円 住所 大野郡白川村馬狩223 電話 05769-6-1187 ※施設見学科300円、2日目の食実費が別途必要です

参加人数

25名程度 (各コース5大学20名程度)

申込締切

2019年
7月10日(水)

※先着順定員になり次第締め切りいたします。

【申込方法】

7月10日(水) 申し込み締切 全項目にご記入ください

申込書を記入し、キャンパスプラザ2階 生涯学習推進課(丹羽・早川)まで提出ください。

氏名		性別		学年	
学籍番号		学部			
携帯電話		メールアドレス			
希望コース (A,B,C,D,Eを記入)	第一希望 _____ 第二希望 _____ 第三希望 _____ A. 高山市コース 8月26～28日 B. 飛騨市コース 8月26～28日 C. 下呂市コース 9月 3～ 5日 D. 白川村コース 9月 3～ 5日 E. どのコースでも可 ※必ずしも希望コースになるとは限りません。予めご了承ください。				
参加可能日程 (レ点を記入)	<input type="checkbox"/> 8月26(月)～28日(水) <input type="checkbox"/> 9月3(火)～5日(木)				
その他 (アレルギー配慮事項)					

【申込み先】 中部大学 生涯学習推進課 (キャンパスプラザ2階) 丹羽・早川
 ☎ : 0568-51-1763 ✉ : plus@office.chubu.ac.jp

記載いただいた情報は、サマースクール2019inひだ以外の目的に使用しません。

ぎふCOC+事業推進コンソーシアム参加大学共通プログラム サマースクール2019inひだ 概要

1. 実施概要（飛騨圏域が広域で参加者数も多いことから、4コースそれぞれ独立に運営する。）

コース	日程・宿泊先	学生負担	テーマ
A.高山市	8月26-28日 乗鞍青少年自然の家	8,000円	高山にどうしたら若者観光客を集めることができるか、また、高山の大半を占める自然（郊外）観光資源をどうしたら活用できるか
B.飛騨市	8月26-28日 やまびこ館	10,000円	薬草（地域資源）の有効活用と市民団体との交流を考える
C.下呂市	9月3-5日 ソラノイエ	10,000円	農村滞在体験から、住み継がれる地域を考える
D.白川村	9月3-5日 トヨタ白川郷自然学校	8,000円 （他に2日目昼食実費・施設見学料300円必須）	白川村のここが「いいね！」観光客と住民の思いをつなげよう

2. 実施体制

全体責任者：岐阜大学 佐々木実 教授

コース	主担当者	協力者・相談相手
A.高山市	名古屋学院大学 田中智麻 講師 岐阜大学 岩澤淳 教授	高山市、高山市大学連携センター、濃飛乗合自動車株式会社
B.飛騨市	岐阜大学 大宮康一 准教授 中部大学 丹羽ゆかり 課長	飛騨市役所
C.下呂市	岐阜大学 小川美由紀 特任助教 日本福祉大学 星野宏 就業支援CD	下呂市役所 佐々木氏
D.白川村	岐阜大学 塚本明日香 助教 中部学院大学 大藪元康 教授	白川村役場観光振興課

3. 参加者：ぎふCOC+事業推進コンソーシアム参加大学の学生（学年・学部不問）

	A.高山市	B.飛騨市	C.下呂市	D.白川村	合計
岐阜大学	5人	10人	4人	10人	29人
中部学院大学	2人	1人	2人	2人	7人
中部大学	7人	6人	6人	5人	24人
日本福祉大学	4人	3人	5人	1人	13人
名古屋学院大学	3人	2人	1人	1人	7人
合計	21人	22人	18人	19人	80人

4. スケジュール目安（※詳細はコースにより異なります）

日	目安	活動内容
1日目 (8/26・9/3)	午前 午後	点呼・参加費徴収・出発 現地情報収集①
2日目 (8/27・9/4)	午前 午後	現地情報収集② グループワーク①
3日目 (8/28・9/5)	午前 午後	グループワーク② 発表会

サマースクールの様子

<高山市コース>



<飛騨市コース>



<下呂市コース>



<白川村コース>



COC+多治見プロジェクト 2019 実施概要

【概要】

▽テーマ：「**新規産業と地場産業 “まるごと元気を目指す多治見の取組” について**」

多治見市の企業誘致の促進による雇用の増加と進出企業による地域貢献活動の取組を学び、併せて多治見市の地場産業で伝統文化でもある“やきもの”について理解を深めます。皆さんには、学生の視点で「更に元気になる（まちが活性化する）ための取組」について議論するとともに、自らのキャリアについても考える機会とします。

▽日程：2019年9月11日（水）～12日（木）1泊 2日

▽宿泊先：三の倉市民の里地球村（住所／多治見市三の倉町猪場37 電話番号／0572-24-3212）

▽参加者：学生14名

▽担当窓口：多治見市産業観光課、名古屋学院大学社会連携センター

【事前準備】

▽多治見市の「企業誘致」に関する情報を収集

- ・多治見市ホームページ<<企業誘致>>

<http://www.city.tajimi.lg.jp/gyose/shisaku/yuchi/kankyo/index.html>

- ・広報たじみ 平成30年 8月号 「たじみいいとここんなどこ」↓

「元気なまちの鼓動 ～地産地消、進出企業による地域貢献事業、企業支援～」

<http://www.city.tajimi.lg.jp/gyose/koho/kohoshi/h30/documents/3008-p03-07.pdf> ·

広報たじみ 平成31年 8月号 「進化するまち多治見」

<https://www.city.tajimi.lg.jp/gyose/koho/kohoshi/h31/documents/3102-all2.pdf>

※皆さんが住んでいる町の「企業誘致」についても調べて、多治見市と比較してみてください！

【集合】

▽集合日時：9月11日（水）9時50分

▽集合場所：JR多治見駅改札口正面の陶壁前
（改札は1ヶ所しかありません）

☆推奨①：JR金山駅9：06発 →（中央線多治見行）
→ JR多治見駅9：49着

☆推奨②：JR金山駅8：40発 →（中央線中津川行）
→ JR多治見駅9：18着



【持ち物等】

▽参加費：4,000円（当日回収／お釣りの無いように持参）

▽持ち物：保険証（原本または写し）、学生証、筆記用具、宿泊セット（歯ブラシ・バスタオル、パジャマ等）、着替え 等 ※風呂場にボディーソープとシャンプーはあります

3. 活動報告<5大学共通プログラム>

【日程表】

◇9月11日(水)

9:50	集合 JR多治見駅改札口陶壁前 →バスに乗車
10:30~12:00	美濃焼ミュージアム見学 学芸員解説付き /多治見市東町1丁目9-27
	[スクールバス移動]
12:20~14:30	トヨタ自動車(株) 多治見サービスセンター/多治見市山吹町1丁目1番1 昼食 施設内レストラン (12:20~13:00) 概要説明+施設見学 (13:00~14:30)
	[スクールバス移動]
14:45~16:00	株式会社丸朝製陶所 多治見市星ヶ台3丁目8番地 工場見学 ※美濃焼産業観光振興補助金によりオープンファクトリー整備
	[スクールバス移動]
16:20~16:40	ヒラクビル見学
16:40~17:15	夕食 カフェ温土 /多治見市本町3丁目11番地
	[スクールバス移動]
18:00	宿泊先(地球村)到着 多治見市三の倉町猪場37
18:30~19:30	体験学習棟にて講義・グループワーク 講師：小林甲一(名古屋学院大学学長)、佐藤律久(名古屋学院大学経済学部准教授)
19:30~20:00	星空観測(地球村にある天文台にて)
~22:00	入浴を済ませる
23:00	消灯

◇9月12日(木)

6:50	起床 →7:20より朝食準備開始
7:50~8:20	朝食(地球村内にて)
8:40	地球村出発
	[スクールバス移動]
9:10~12:00	Amazon 多治見フルフィルメントセンター /多治見市旭ヶ丘10-6-136 Amazon 特別プログラム Amazon×COC+サマースクール(岐阜大学、中部大学、 中部学院大学、日本福祉大学、名古屋学院大学) ※Amazonの企業理念、OLP、地域貢献活動について学び、施設見学する中で自らのキ ャリアと多治見で働く魅力について考える機会とする。 企業理念、OLP、多治見FCについて説明(9:15~9:45) 地域貢献活動について説明(9:45~10:15) 施設見学(10:30~11:20) 昼食 施設内カフェテリア(11:20~11:50)
	[スクールバス移動]
12:20~13:00	休憩/産業文化センター大会議室 /多治見市新町1丁目23
13:00~16:00	グループワーク「新規産業と地場産業“まるごと元気を目指す多治見の取組”につ いて」考える ▽ファシリテーター：佐藤律久(名古屋学院大学経済学部准教授)
16:00	終了、解散→多治見駅へスクールバスで移動 (16:30頃解散予定)

【注意事項】

※訪問先では「明るい笑顔」「元気な挨拶」「大きな声で質問」を心がけてください。

※全日程を通して、飲酒禁止です

※アレルギー症状のある方や、健康状態に不安にある方は、事前にお知らせください。

※プログラム終了後に発表や報告書作成をお願いする場合があります。ご了承ください。

【トヨタ・アマゾン訪問時】

※スニーカー着用(底がゴム製の革靴はOK) ▶頭髪/首まわりから下より長い髪の場合は、ピンで留める、束ねるなどの対応【NG事項】パーカー、フード、帽子、チェーンやストラップのついている服、スカート、ダボダボのズボン、ネックレス、イヤリング、ピアス、指輪、携帯電話の持ち込み

COC+多治見プロジェクトの様子



トヨタ自動車（株）多治見サービスセンター見学・集合写真



美濃焼ミュージアム説明・見学



Amazon 多治見フルフィルメントセンター見学・集合写真



グループワーク（地球村）



発表（産業文化センター）

(2) ぎふCOC+事業推進コンソーシアム成果発表会

令和元年度 ぎふCOC+事業推進コンソーシアム 成果発表会

12月14日(土) 14:00~16:30

会場 岐阜大学 教育学部 B107大講義室

ぎふCOC+事業推進コンソーシアムは、平成27年度に岐阜大学が主幹校となり文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」に採択されたことに伴って組織されました。岐阜大学・中部学院大学・中部大学・日本福祉大学・名古屋学院大学の5大学が参画しています。各大学では共通の目標・ステップに基づいた教育プログラムを実施しており、主に岐阜県をフィールドとして活動をしています。今回は各大学で学ぶ学生たちがその学修成果を発表します。

**申込不要
参加無料**

発表者 岐阜大学・中部学院大学・中部大学・日本福祉大学・名古屋学院大学の学生

プログラム

- 14:00 開会挨拶
- 14:05 サマースクール2019inひだ各コースからの発表
A.高山市コース、B.飛騨市コース、C.下呂市コース、D.白川村コース
- 15:10 参加大学からの発表
(1)中部学院大学 (2)中部大学 (3)日本福祉大学
(4)名古屋学院大学 (5)岐阜大学
- 16:15 講評
- 16:25 閉会挨拶

問合せ **CCSC** 地域協学センター [TEL] 058-293-3880
Center for Collaborative Study with Community [FAX] 058-293-3881
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp [URL] http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp



国立大学法人
岐阜大学



中部学院大学
大学院 / 大学 / 短期大学部



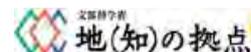
中部大学



日本福祉大学



名古屋学院大学



令和元年度 ぎふ COC+事業推進コンソーシアム 成果発表会 当日プログラム

13:30～ 受付

14:00～ 開会挨拶

岐阜大学学長 森脇 久隆

14:05～ 学生発表第一部（サマースクール2019inひだ）

①サマースクール高山編

発表者：岐阜大学 地域科学部3年 島田 大輝
名古屋学院大学 現代社会学部1年 深澤 真由

②サマースクール飛騨市コース

発表者：岐阜大学 工学部2年 今井 創大
岐阜大学 工学部2年 石田 祥輝

③サマースクール下呂市コース

発表者：中部学院大学 人間福祉学部1年 柘植 実夕
日本福祉大学 健康情報学部2年 藤原 佑衣
中部大学 工学部1年 上田 蒼明

④サマースクール白川村コース

発表者：岐阜大学 工学部3年 下牧 忠正
岐阜大学 地域科学部2年 森本 多香美

—休憩—

15:10～ 学生発表第二部

⑤中部学院大学「生活協同組合コープぎふでのインターンシップについて」

発表者：中部学院大学2年 本田 典大

⑥中部大学「中部大学COC+事業の取組み」

発表者：中部大学3年 西脇 翔・石田 悠樹
小川 東登・藤原 悠真・松村 亜輝良

⑦日本福祉大学「課題解決型インターンシップ 取組みと学んだこと」

発表者：日本福祉大学3年 杉岡 真帆・新井 宗太郎

⑧名古屋学院大学「COC+多治見プロジェクト2019」

発表者：名古屋学院大学 大西 彩子・金田 知華

⑨岐阜大学「次世代地域リーダー育成プログラムでの活動」

発表者：岐阜大学3年 杉山 七海

16:15～ 全体質疑

16:25～ 講評・閉会挨拶

統括事業推進コーディネーター 成原 嘉彦

ぎふCOC+事業推進コンソーシアム 成果発表会の様子



工学部 都市建設工学科 1年 上田蒼明 テーマ 「サマースクール下呂市コース」



工学部 都市建設工学科 2年 西脇翔・石田悠樹・小川東登・藤原悠真・松村亜輝良
テーマ 「中部大学 COC+事業の取り組み」

(3) 企業見学会

岐阜県内企業への理解を深めよう

高山企業見学会

岐阜大学では、地元企業をより深く理解し、企業との相互理解や他大学生との交流による学生のキャリア意識向上を図ることを目的とした企業見学会を実施しています。今回は、日本国内外から多くの観光客が訪れる高山市の企業2社を見学します。「おもてなし」を理念とした旅館と地域密着型で地元食材を豊富に取扱うスーパーマーケットを経営する企業です。

**参加費
無料**
要事前申込

開催日時 2019年 **6月1日(土)** 8:00~18:30

見学
1

株式会社本陣平野屋

ミシュランガイド三ツ星の国際観光都市
「飛騨高山」のおもてなし旅館



トリップアドバイザーのトラベラーズチョイス™ホテルアワード2015、2016で選ばれたおもてなしが魅力の旅館。

見学
2

株式会社ファミリーストアさとう

Best of ご当地スーパー2013受賞
高山の食文化を発信するスーパー



TBSのマツコの知らない世界等で取り上げられるなどメディア注目の地元密着型スーパー。ネット販売にも注力し、全国各地から注文が舞い込む。

集合場所 岐阜駅(岐阜駅北口駅前広場団体バス乗降場) 又は岐阜大学正門ミニストップ前

見学日程

8:00	JR岐阜駅(岐阜駅北口駅前広場団体バス乗降場) 出発
8:30	岐阜大学(ミニストップ前) 出発
11:00	高山市到着(自由見学・昼食)
12:30~13:50	株式会社本陣平野屋見学
14:10~15:30	株式会社ファミリーストアさとう見学
15:30	高山市出発
18:00	岐阜大学(ミニストップ前) 到着
18:30	JR岐阜駅(岐阜駅北口駅前広場団体バス乗降場) 到着

対象 岐阜大学、中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜経済大学の学生(学年不問)

募集人数 **5名**(先着順)

参加費用 **参加費無料** ※昼食等は自己負担

申込締切 **5月24日(金)**

申込方法 C-NETの支援プログラムAからお申込みください。

お問い合わせ

中部大学 キャリア支援課

[TEL] 0568-51-4184 [E-Mail] syusyoku@office.chubu.ac.jp



中部大学



文部科学省
地(知)の拠点

岐阜県内企業への理解を深めよう

東濃企業見学会

地元産業・企業とのつながりを深く認識し、キャリア意識の向上を目的とした企業見学会を実施します。今回の企業見学会の舞台は東濃地区です。
農産物の工場生産に成功し、教育型観光生産施設を運営する株式会社サラダコスモ（中津川市）と、地場産業である窯業等に必要な窯を製造する高砂工業株式会社（土岐市）の二社を見学します。

参加費
無料
要事前申込

開催日時

2019年6月15日(土) 8:00~18:15

見学
1

株式会社サラダコスモ

日本における植物工場の先駆的存在



今では一般的になった「無漂白もやし」は、サラダコスモによるもので、現在ではスプラウト、チコリ等も植物工場で栽培している。
新規事業で立ち上げた教育観光型生産施設「ちこり村」は中津川市の有数の観光スポットの1つである。

見学
2

高砂工業株式会社

セラミックスを作るための窯を製造する企業



焼き物を造る設備製造からスタート。今では蓄電池材料等の最先端材料の製造でもその技術が活かされている。また、近年では金属熱処理設備にも力を入れており、ものづくりの根元を支えている。

集合場所

岐阜大学正面ミニストップ前、又は
JR岐阜駅（岐阜駅北口駅前広場団体バス乗降場）

見学日程

8:00 岐阜大学出発
8:30 JR岐阜駅出発
10:30~12:30 株式会社サラダコスモ 見学
12:45~13:30 昼食（恵那峡サービスエリア）
14:15~16:15 高砂工業株式会社 見学
17:45 JR岐阜駅到着
18:15 岐阜大学到着 解散

対象

岐阜大学、中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜経済大学の学生（学年不問）

募集人数

7名（先着順）

参加費用

参加費無料 ※昼食等は自己負担

申込締切

6月7日(金)

申込方法

C-NETの支援プログラムAからお申込みください。

お問い合わせ

中部大学 キャリア支援課

[TEL] 0568-51-4184 [E-Mail] syusyoku@office.chubu.ac.jp

 中部大学

 文部科学省
地(知)の拠点

岐阜県内企業への理解を深めよう

郡上企業見学会

郡上の企業を知り、大学での学びを深め、地域や地元産業・企業とのつながりを深く認識するとともに、キャリア意識の向上を図ることを目的とした郡上企業見学会を実施します。今回は、郡上市の観光産業の一翼を担っている二つの企業を見学します。皆様のご参加をお待ちしています。

参加費
無料
要事前申込

開催日時

令和元年**10月19日(土)**8:30~18:30

見学
1

株式会社牧歌コーポレーション

郡上の観光産業を代表する企業



テーマパーク「ひるがの高原牧歌の里」を運営している。四季折々の大自然を満喫でき、さまざまな動物と触れ合える。季節のイベントや手作り体験も充実しており、飲食販売や土産販売も行う郡上を代表する観光スポットのひとつ。

見学
2

株式会社スクラム

標高日本一のサービスエリア運営企業



ひるがの高原サービスエリアの経営と運営を行う。地元の食材を活用した食事や地域性あふれる土産の提供をしている。郡上市の北の玄関口として、情報の発信場所となっており、サービスエリアの枠を超えた役割を担っている。

集合場所

JR岐阜駅(岐阜駅北口駅前広場団体バス乗降場)

見学日程

8:30 JR岐阜駅(岐阜駅北口駅前広場団体バス乗降場)出発
10:30 株式会社牧歌コーポレーション見学
 (11:00~12:45の自由見学の間に各自で昼食)
14:30 株式会社スクラム見学
16:40 郡上市出発
18:30 JR岐阜駅(岐阜駅北口駅前広場団体バス乗降場)到着

対象

岐阜大学、中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜協立大学の学生(学年不問)

募集人数

20名(先着順)

参加費用

参加費無料 ※昼食等は自己負担

申込締切

10月11日(金)

申込方法

C-NETの支援プログラムAからお申込みください。

お問い合わせ

中部大学 キャリア支援課

[TEL] 0568-51-4184 [E-Mail] syusyoku@office.chubu.ac.jp

 **中部大学**

 文部科学省
地(知)の拠点

岐阜県内企業への理解を深めよう 西濃企業見学会

西濃の企業を知り、大学での学びを深め、地域や地元産業・企業とのつながりを深く認識するとともに、キャリア意識の向上を図ることを目的とした西濃企業見学会を実施します。今回は、開発から製造まで一貫して行う製造企業と、地域の高度情報化を果たすべく設立されたIT企業を見学します。皆様のご参加をお待ちしています。

参加費
無料
要事前申込

開催日時

令和元年**11月9日(土)** 8:45~15:40

見学
1

株式会社関ヶ原製作所

「グッドカンパニー大賞 東海地区優秀企業賞」受賞企業。ニッチ戦略と高度な技術力が魅力

サブミクロン単位の精度が求められる精密石材製品から、船舶用クレーンやトンネル掘削機などの大型製品まで、多種多様なオーダーメイド製品を製造する。開発・設計に始まり、製造からアフターサービス、品質管理まで一貫通貫のものづくり体制が魅力。



見学
2

株式会社ソフィア総合研究所

社員の「ライフワークバランス」と地域の高度情報化への貢献の両立を目指すIT企業

地域の情報化を積極的に推し進めたいという地元産業界の意向を基に設立されたIT企業。ソフトウェアやウェブサイトの構築などの受託開発を行うシステムインテグレーション事業を展開している。人と人をつなぐシステムの創造を目指す。



集合場所

JR岐阜駅(岐阜駅北口駅前広場団体バス乗降場)

見学日程

8:45 JR岐阜駅(岐阜駅北口駅前広場団体バス乗降場)出発
10:00 株式会社関ヶ原製作所見学
12:00 各自で昼食(1時間程度)
13:30 株式会社ソフィア総合研究所見学
15:00 大垣市出発
15:40 JR岐阜駅(岐阜駅北口駅前広場団体バス乗降場)到着

対象

岐阜大学、中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜協立大学の学生(学年不問)

募集人数

20名(先着順)

参加費用

参加費無料 ※昼食等は自己負担

申込締切

11月1日(金)

申込方法

C-NETの支援プログラムAからお申込みください。

お問い合わせ

中部大学 キャリア支援課

[TEL] 0568-51-4184 [E-Mail] syusyoku@office.chubu.ac.jp



中部大学



文部科学省

地(知)の拠点

(4) 岐阜企業展

2021年3月以降卒業予定の学生さんへ

業界研究& インターンシップ 説明会



岐阜県内の優良企業がブースを出展します。
ミニセミナーや企業プレゼンもあり、
就活の本格スタート前に、企業研究を進めたい方にぴったりです!

途中入退場自由

私服 OK

業界研究に◎

「予約→来場」で
QUOカード
1,000円分
プレゼント!

さらに!
ブース3社訪問で
QUOカード
もう1枚(500円分)
プレゼント!

2020年 参加企業 2日間で 100社!

参加企業は裏面をご覧ください

名古屋会場

岐阜会場

2月12日(水)

2月14日(金)

会場 ウィンクあいち 8F

大垣共立銀行、十六銀行、文溪堂 など約40社

会場 岐阜市文化センター 1F

岐阜信用金庫、大垣西濃信用金庫、トーカイ など約60社

両日とも13:00~17:00 (受付開始 12:00~)

対象 2021年以降に卒業予定の大学院・大学・短大・高専・専修/専門学校の学生さん

●事前予約、参加企業の詳細は
右のQRコードを読み取りご確認ください。

岐阜経協 マイプランネット

検索

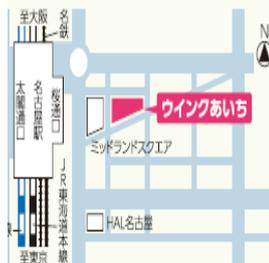


<https://gifukeikyo.org/myplan/>

●会場のご案内●

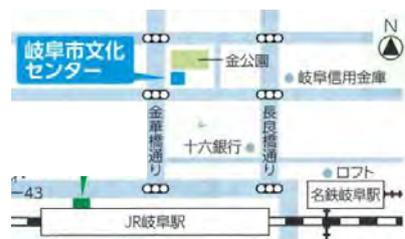
ウィンクあいち

(名古屋市中村区名駅 4-4-38)
JR名古屋駅 桜通口より
徒歩約5分



岐阜市文化センター

(岐阜市金町 5-7-2)
JR岐阜駅 北口より
徒歩約10分



一般社団法人 岐阜県経営者協会

TEL 058-266-1151 E-mail jmk@gifukeikyo.org

後援 岐阜県、岐阜県学生就職連絡協議会

(岐阜県内18国公私立大学・短期大学部と経済団体等で構成する組織)

2月12日(水) 参加企業 (名古屋会場:ウインクあいち 8F)

- 金融** (株)大垣共立銀行、大垣西濃信用金庫、岐阜信用金庫、(株)十六銀行、東濃信用金庫
- 製造** (株)アイコトリョウワ、MTK(株)、カイインダストリーズ(株)、岐阜プラスチック工業(株)
(株)ケーイーシー、SANEI(株)、三甲(株)、サンワトレーディング(株)、シーシーアイホールディングス(株)
昭和コンクリート工業(株)、太平洋精工(株)、大豊製紙(株)、(株)TYK、日本耐酸壘工業(株)、
(株)樋口製作所、富士変速機(株)、三菱日立ホームエレベーター(株)、森松工業(株)、矢橋ホールディングス(株)
レシップホールディングス(株)、太平洋工業(株)(プレゼンのみ)
- 建設** イビデンエンジニアリング(株)、岐建(株) **エンジニアリング** 大進精工(株)
- 商社(総合)** (株)亀太 **商社(自動車)** 岐阜スバル自動車(株)、岐阜トヨペット(株)
- 情報サービス** 共立コンピューターサービス(株)、(株)セイノー情報サービス
- スーパー** (株)ファミリーストアさとう **アパレル** サンラリーグループ **教育出版図書** (株)文溪堂
- 専門サービス** オンダ国際特許事務所 **食品・医薬品** アピ(株) (プレゼンのみ)

2月14日(金) 参加企業 (岐阜会場:岐阜市文化センター1F)

- 金融** 大垣西濃信用金庫、岐阜信用金庫、関信用金庫、高山信用金庫、(株)大垣共立銀行(プレゼンのみ)
- 製造** アテナ工業(株)、(株)イマオコーポレーション、(株)岩田製作所、(株)エドランド工業、(株)エヌテック
(株)エヌビーシー、MTK(株)、(株)オーセロ、(株)オンダ製作所、岐阜精工(株)、(株)ケーイーシー、(株)KVK
(株)桜井グラフィックシステムズ、(株)三機、三甲(株)、サンケミカル(株)、シーシーアイホールディングス(株)
昭和コンクリート工業(株)、新興機械(株)、(株)末永製作所、太平洋工業(株)、(株)TYK
天龍ホールディングス(株)、トヨタ部品岐阜共販(株)、ナベヤ(株)、日本耐酸壘工業(株)、野原電研(株)
ハビックス(株)、(株)樋口製作所、福寿工業(株)、フジ精密(株)、丸栄コンクリート工業(株)、ミズタニバルブ工業(株)
森松工業(株)、矢橋ホールディングス(株)、レシップホールディングス(株)
- 建設** イビデンエンジニアリング(株)、岐建(株)、(株)野田クレーン、(株)山辰組
- 商社(自動車)** 岐阜スバル自動車(株)、岐阜ダイハツ販売(株)、岐阜日産自動車(株)、岐阜乗合自動車(株)
- 商社(総合)** (株)亀太 **商社(薬)** 河上薬品商事(株) **商社(OA機器)** 中部事務機(株)
- 商社(紙)** ヤマニ洋紙工業(株) **物流** 濃飛倉庫運輸(株)、濃飛西濃運輸(株) **食品** (株)デリカサイト
- 専門サービス** オンダ国際特許事務所 **医療・福祉** (株)トーカイ **ディスプレイ** (株)パールマネキン
- 家具** (株)久米商店(スーパーバリュー) **印刷** (株)コムラ、サンメッセ(株) **教育出版図書** (株)文溪堂
- 情報サービス** 共立コンピューターサービス(株)、(株)ソフィア総合研究所、(株)テクノア
- ブライダル・葬儀** (株)岐阜冠婚葬祭互助会 **ガス** (株)マルエイ

※参加企業は一部変更となる場合があります。

※ 詳しくはwebサイトをご覧ください。

学生会員募集中

岐阜県内の業界研究やインターンシップ関連の
イベント情報を無料で配信します。



企業のチェックや
学生会員登録は
ここから!

2021年3月卒業予定の学生さんへ

岐阜県 就職ガイダンス



岐阜県内の優良企業がブースを出展します。
ミニセミナーや企業プレゼンもあり、
あなたの就活を全力で応援します!

途中入退場自由

予約不要

スーツ着用

「予約→来場」で
QUOカード
1,000円分
プレゼント!

さらに!
ブース3社訪問で
QUOカード
もう1枚(500円分)
プレゼント!

2020年 参加企業 3日間で 170社 参加企業は裏面をご覧ください

岐阜会場

3月2日(月) / 7日(土)

参加企業 65社

参加企業 65社

会場 岐阜市文化センター 1F

名古屋会場

3月19日(木)

参加企業 45社

会場 ウィンクあいち 6F

各回とも13:00~17:00 (受付開始 12:00~)

対象 2021年3月に卒業予定の大学院・大学・短大・高専・専修/専門学校の学生さん

●事前予約、参加企業の詳細は
右のQRコードを読み取りご確認ください。

岐阜経協 マイプランネット

検索



<https://gifukeikyo.org/myplan/>

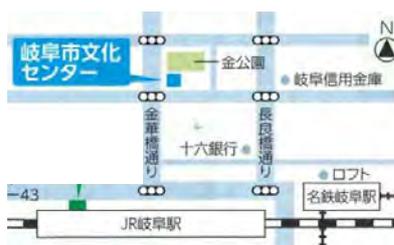
●会場のご案内●

岐阜市文化センター

(岐阜市金町 5-7-2)

JR 岐阜駅 北口より

徒歩約 10分



ウィンクあいち 6F

(名古屋市中村区名駅 4-4-38)

JR 名古屋駅 桜通口より

徒歩約 5分



一般社団法人 岐阜県経営者協会

TEL 058-266-1151 E-mail jmk@gifukeikyo.org

後援 岐阜県、岐阜県学生就職連絡協議会

(岐阜県内 18 国公立大学・短期大学部と経済団体等で構成する組織)

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」
(平成27年度採択)
事業名称「岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成」

地域で活躍する「地域活性化リーダー」教育プログラム
2019(令和元)年度 成果報告書

発行日 2020(令和2)年3月

編集発行 中部大学 国際・地域推進部
〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地
電話:0568-51-1763 FAX:0568-51-1172
<https://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/>

印刷 木野瀬印刷株式会社
〒486-0958 愛知県春日井市西本町三丁目235番地

